

2024年3月期 第3四半期 決算説明資料



フジ・メディア・ホールディングス

2024年2月6日

目次

- 1 2024年3月期
第3四半期決算概要
- 2 2024年3月期
通期業績予想とトピックス
- 3 株主への利益還元
- 4 中期グループビジョンを通じた
資本効率向上への取り組み
- 5 サステナビリティの取り組み
- 6 参考資料



1

2024年3月期 第3四半期決算概要

2

2024年3月期
通期業績予想とトピックス

3

株主への利益還元

4

中期グループビジョンを通じた
資本効率向上への取り組み

5

サステナビリティの取り組み

6

参考資料

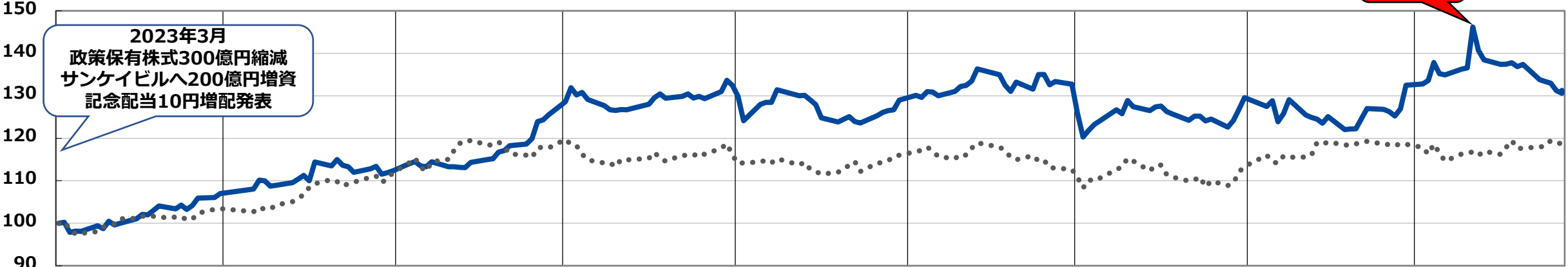


連結決算



今期の動き

12月13日
1,755.5円



—— フジ・メディア・ホールディングス 日経平均 2023年4月3日(月)の株価を100として推移を示しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
4月5日 1,175円									
FMH		<ul style="list-style-type: none"> 中期グループビジョン発表 自己株式取得100億円発表 自己株式 12.6億円 (93.5万株) 取得 	<ul style="list-style-type: none"> 経営諮問委員会設置・開催 自己株式 9.1億円 (67.1万株) (累計: 21.8億円・160.6万株) 取得 	<ul style="list-style-type: none"> 自己株式 7.0億円 (45.4万株) (累計: 28.8億円・206.1万株) 取得 	<ul style="list-style-type: none"> 第1四半期決算発表 自己株式 13.4億円 (88.2万株) (累計: 42.2億円・294.3万株) 取得 	<ul style="list-style-type: none"> 自己株式 6.2億円 (39.4万株) (累計: 48.5億円・333.7万株) 取得 	<ul style="list-style-type: none"> 自己株式 10.5億円 (70.0万株) (累計: 59.1億円・403.7万株) 取得 	<ul style="list-style-type: none"> 自己株式 9.4億円 (63.4万株) (累計: 68.6億円・467.2万株) 取得 	<ul style="list-style-type: none"> 第7回無担保社債 200億円発行 自己株式 9.7億円 (58.7万株) (累計: 78.3億円・526万株) 取得
メディア・エンタテインメント	<ul style="list-style-type: none"> フジテレビ 映画「東京リベンジャーズ2 血のハロウィン編・運命」公開 ニッポン放送 「Smile&Green やつと会えたね」ニッポン放送 ラジオパーク in 日比谷 2023」開催 	<ul style="list-style-type: none"> フジテレビ 特番『THE SECOND ～漫才トーナメント～』放送 	<ul style="list-style-type: none"> フジテレビ 映画「東京リベンジャーズ2 血のハロウィン編・決戦」公開 「アレグリア-新たな光-」来場者52万人で東京公演終了 スマホ・テレビアプリ「FOD」累計3,000万ダウンロード突破 	<ul style="list-style-type: none"> フジテレビ 「FNS27時間テレビ」放送 4年ぶりに復活、7年ぶりの生放送 「お台場冒険王」開幕 「アレグリア-新たな光-」大阪公演開始 	<ul style="list-style-type: none"> 扶桑社、ピーエスフジ、ポニーキャニオン等 「地域活性化の取扱説明書」発行 	<ul style="list-style-type: none"> フジテレビ 特番「FIVBパリ五輪予選 ワールドカップバレー2023」放送 映画「ミステリと言う勿れ」公開 米国エンタメ企業 「スカイバウンド社」とパートナーシップ構築 中国「bilibili社」とパートナーシップ構築 	<ul style="list-style-type: none"> フジテレビ 韓国「ZEPETO」とパートナーシップ締結 ニッポン放送 オールナイトニッポンのサブスクアプリ 「オールナイトニッポン JAM」累計10万ダウンロード突破 ポニーキャニオン 千葉県長生村とシティプロモーション、移住プロモーション、観光振興等に関し包括連携協定を締結 	<ul style="list-style-type: none"> フジテレビ Spotifyとパートナーシップ締結 映画「翔んで埼玉 ～琵琶湖より愛をこめて～」公開 	<ul style="list-style-type: none"> ニッポン放送 日本語音声を多言語に変換できるツール 「リングイネ！」β版を開発
都市開発・観光	<ul style="list-style-type: none"> サンケイビル 賃貸レジデンス 「ルフォンプロレ浅草テラス」 「ルフォンプロレ浅草田原町」 竣工 「(仮称)長岡京市物流計画」開発着手 「S-GATE FIT 日本橋馬喰町」竣工 	<ul style="list-style-type: none"> グランピスタ 新水族館の名称が 「神戸須磨シーワールド」に決定 サンケイビル 「足立入谷物流施設」竣工 	<ul style="list-style-type: none"> サンケイビル 「(仮称)台東二丁目 賃貸レジデンス計画」開発着手 賃貸レジデンス 「ルフォンプロレ大森山王」 竣工 	<ul style="list-style-type: none"> サンケイビル 新築分譲マンション 「(仮称)板橋本町計画」開発着手 「SANKEILOGI府中」開発着手 「S-GATE FIT天神南」竣工 本町サンケイビル 「照明施設賞」を受賞 	<ul style="list-style-type: none"> サンケイビル 賃貸レジデンス 「(仮称)江東区永代一丁目 賃貸レジデンス計画」開発着手 「ダブルツリーbyヒルトン京都東山」開業 	<ul style="list-style-type: none"> サンケイビル 新築分譲マンション 「ルフォン松戸北小金」竣工 サステナビリティ・リンク・ローン 7～9月総額551億円の実行 「須磨海浜公園」一部園地 先行オープン 		<ul style="list-style-type: none"> サンケイビル 物流施設 「MCUD 南吹田」竣工 新築分譲マンション 「ルフォン上野松が谷」 VR モデルルーム オープン 	<ul style="list-style-type: none"> サンケイビル 物流施設 「川越市物流施設」取得 日本初のホテルコンドミニアム・ホテルレジデンス 「BLISSSTIA (プリステリア) 箱根仙石原」竣工

今期決算のポイント

業績

- **連結業績：前期比：増収営業増益、計画比：入り繰りはあったがほぼ見通し通り**
- **メディア・コンテンツ事業**：「配信」と「コンテンツで稼ぐ」ビジネスが好調
フジの配信広告、デジタル（FOD）、アニメ、MD、ポニーキャニオンの配信、グッズ、クオラスのイベント等で増収
フジの放送収入やDINOSの減収等で減益
- **都市開発・観光事業**：サンケイビルの賃貸、販売・売却、グランビスタのホテルが好調で増収増益

ポイント

- **メディア・コンテンツ事業：増収減益**
- **フジテレビ**：増収減益、3Qは減収増益
放送・メディア：減収粗利益減益、番組制作費は適切なコントロールと前年のサッカーW杯の反動で減少
・ **地上波**：タイム：レギュラーは減収、単発はサッカーW杯の反動等で減収
スポット：9月下旬以降アルコール、化粧品・トイレタリー等の一部商材で回復の兆し
・ **配信**：大幅増収 木10「いちばんすきな花」等で再生数伸長、12月は単月売上で初の10億超え
- コンテンツ・ビジネス**：増収粗利益増益
・ **デジタル**：FOD有料会員の増加継続
・ **MD**：「アレグリア」の物販や、配分金等が貢献
・ **アニメ開発**：「ちいかわ」関連や配分金収入が引き続き好調
- **グループ各社**：
・ **ビーエスフジ**：タイムが引き続き好調
・ **ポニーキャニオン**：配信、イベント、グッズ等好調
・ **クオラス**：イベント、クリエイティブ等好調
・ **DINOS**：ファッションが11月に入り復調、3Qは黒字化
- **都市開発・観光事業：増収増益**
- **サンケイビル**：増収増益 住宅、オフィス等の賃貸、オフィス、物流施設等の販売が好調
- **グランビスタホテル&リゾート**：増収増益 ホテルが回復基調継続、海洋レジャーも堅調

通期

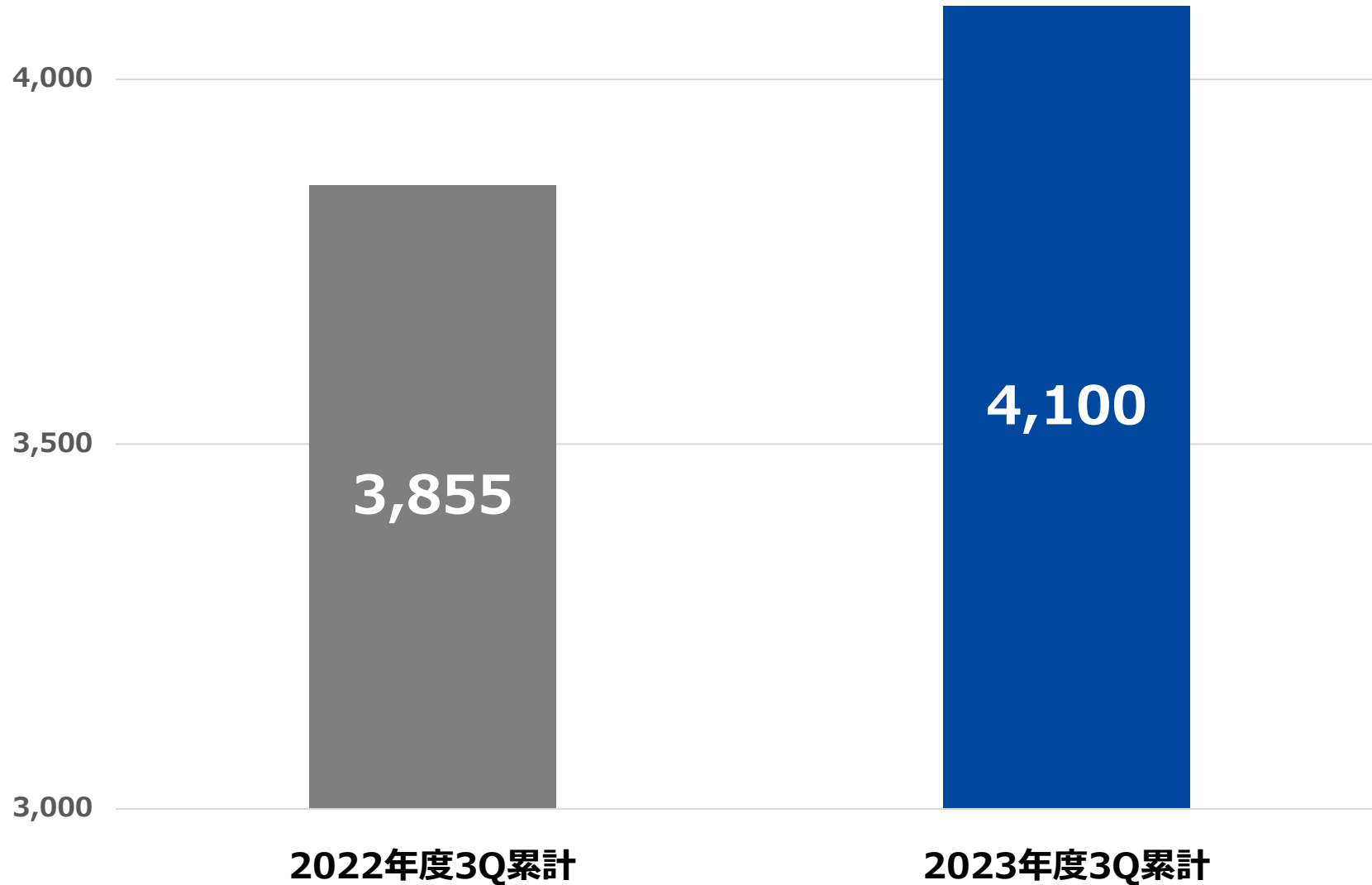
■ **通期の連結業績予想：変更無し**

資本収益性の
向上策

中期グループビジョンに基づく今後の方針を
改めて開示する予定

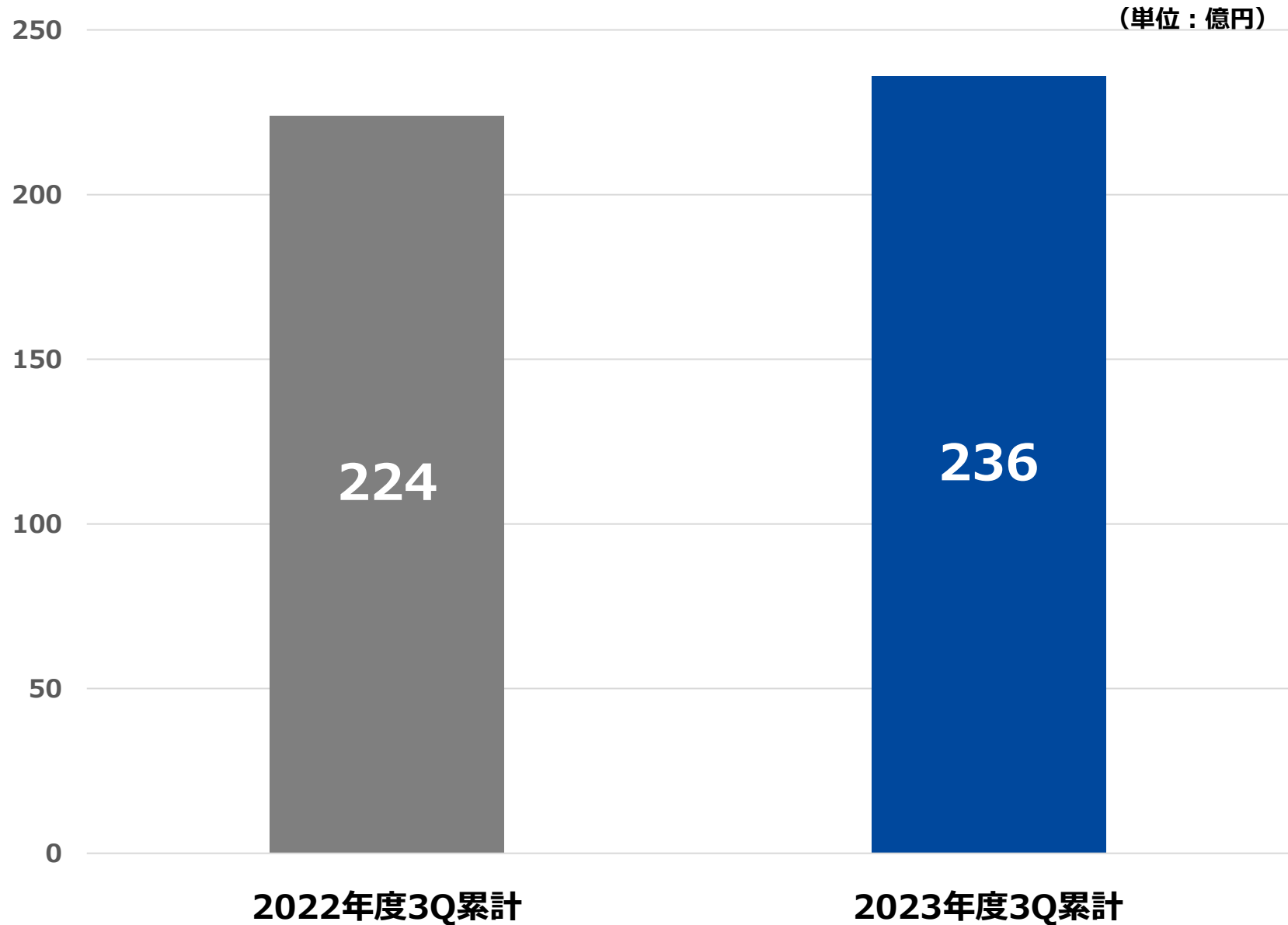
連結売上高

(単位：億円)



6.4%
増収

連結營業利益

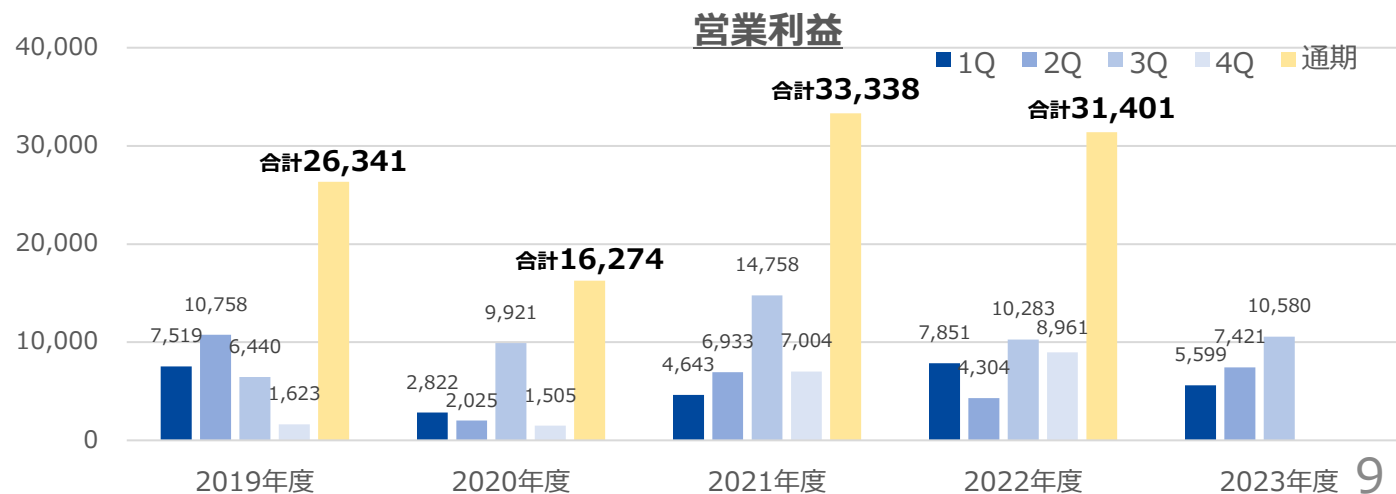
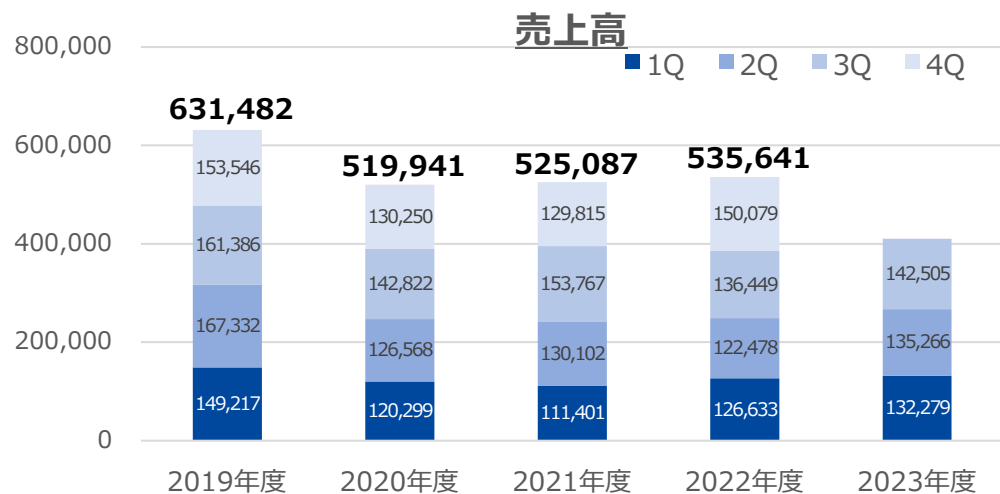


5.2%
増益

連結決算概要

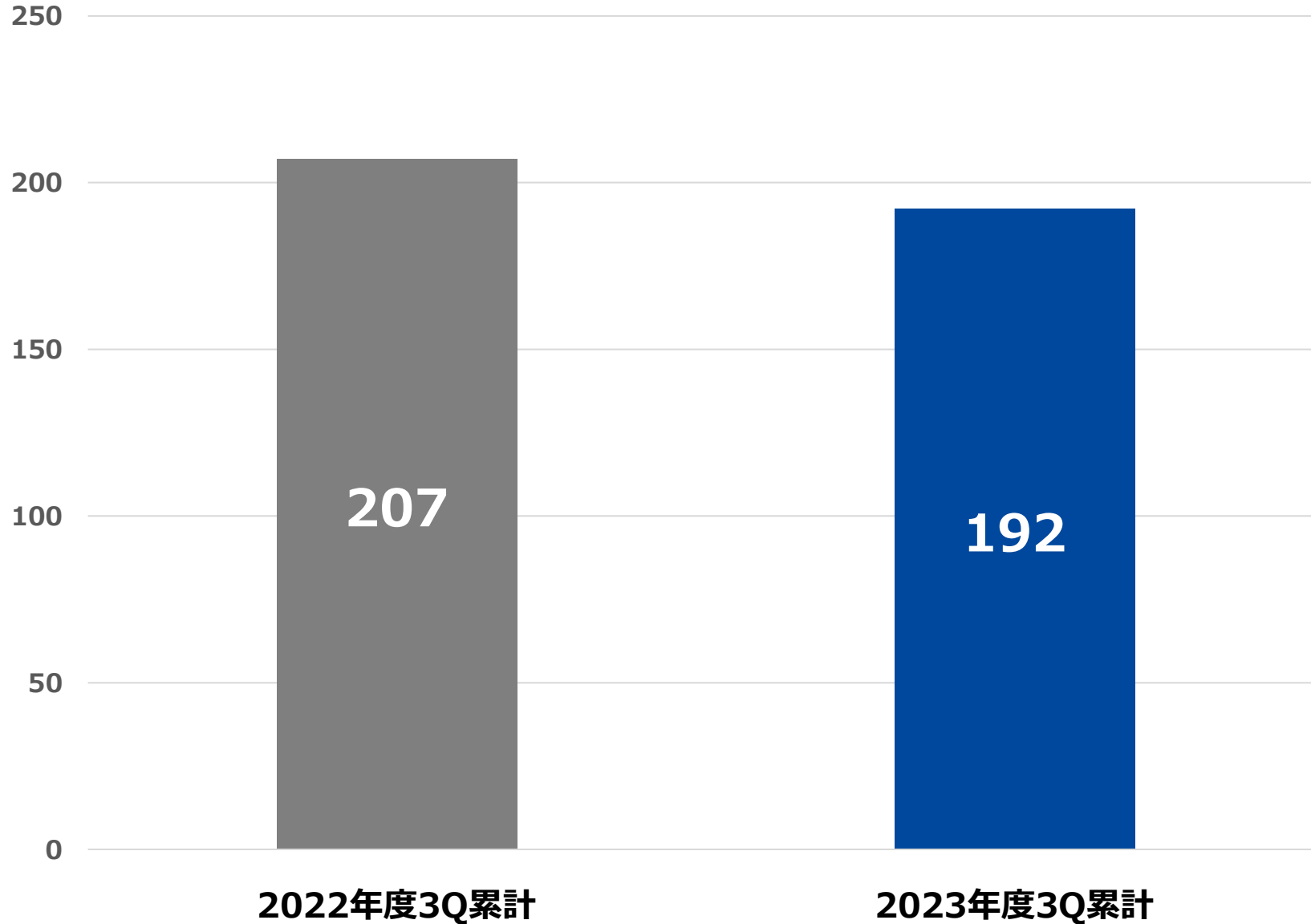
(単位：百万円)

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	対前期増減		通期 業績予想 (5/11)	対通期予想 達成率	
売上高	385,561	410,051	24,489	6.4%	557,700	▲147,648	73.5%
営業利益	22,439	23,601	1,162	5.2%	32,000	▲8,398	73.8%
経常利益	28,857	28,387	▲470	▲1.6%	39,300	▲10,912	72.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	20,732	19,256	▲1,475	▲7.1%	26,000	▲6,743	74.1%



四半期純利益

(単位：億円)



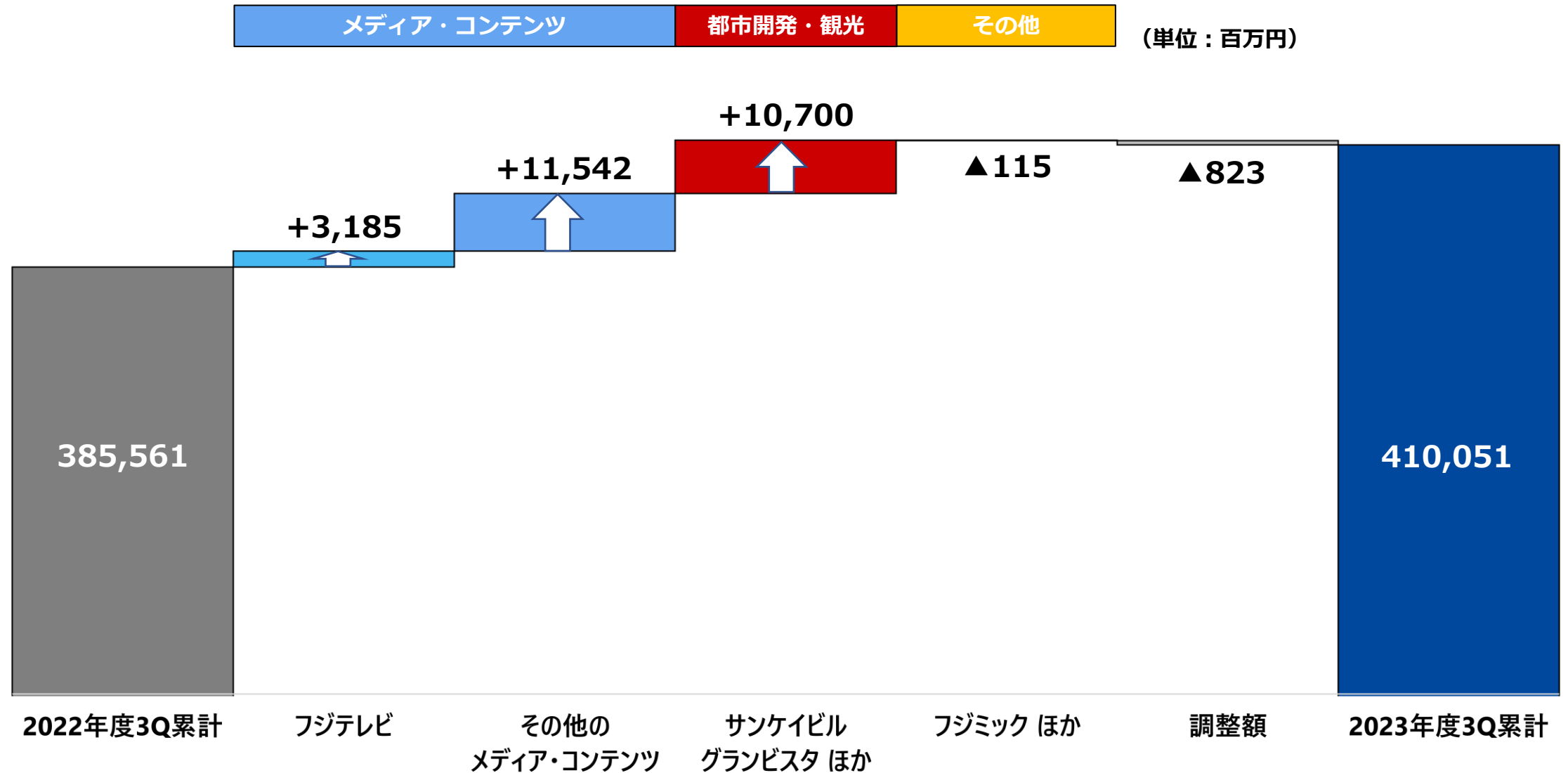
7.1%
減益

セグメント別の売上高及び営業利益

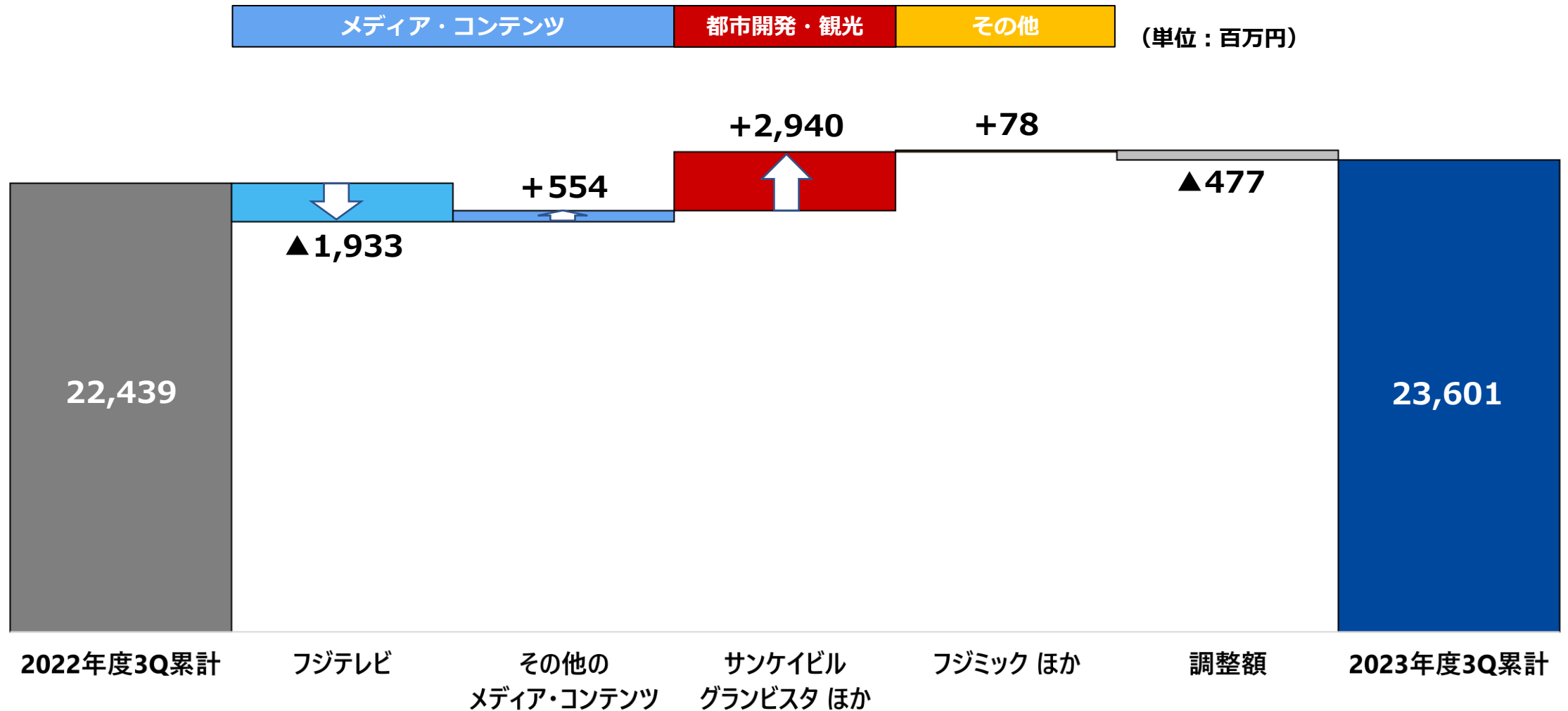
(単位：百万円)

	事業セグメント			計	調整額	連結損益 計算上 書額	
	メディア・ コンテンツ 事業	都市開発・ 観光事業	その他 事業				
売上高	2023年度3Q累計	325,524	80,962	15,179	421,666	▲11,615	410,051
	2022年度3Q累計	310,796	70,261	15,295	396,353	▲10,791	385,561
	増減	14,727	10,700	▲115	25,313	▲823	24,489
	増減 (%)	4.7%	15.2%	▲0.8%	6.4%	—	6.4%
営業利益	2023年度3Q累計	11,840	12,663	855	25,359	▲1,757	23,601
	2022年度3Q累計	13,219	9,723	777	23,719	▲1,280	22,439
	増減	▲1,378	2,940	78	1,639	▲477	1,162
	増減 (%)	▲10.4%	30.2%	10.1%	6.9%	—	5.2%
営業 利益率	2023年度3Q累計	3.6%	15.6%	5.6%	6.0%	—	5.8%
	2022年度3Q累計	4.3%	13.8%	5.1%	6.0%	—	5.8%

セグメント別売上高と増減要因

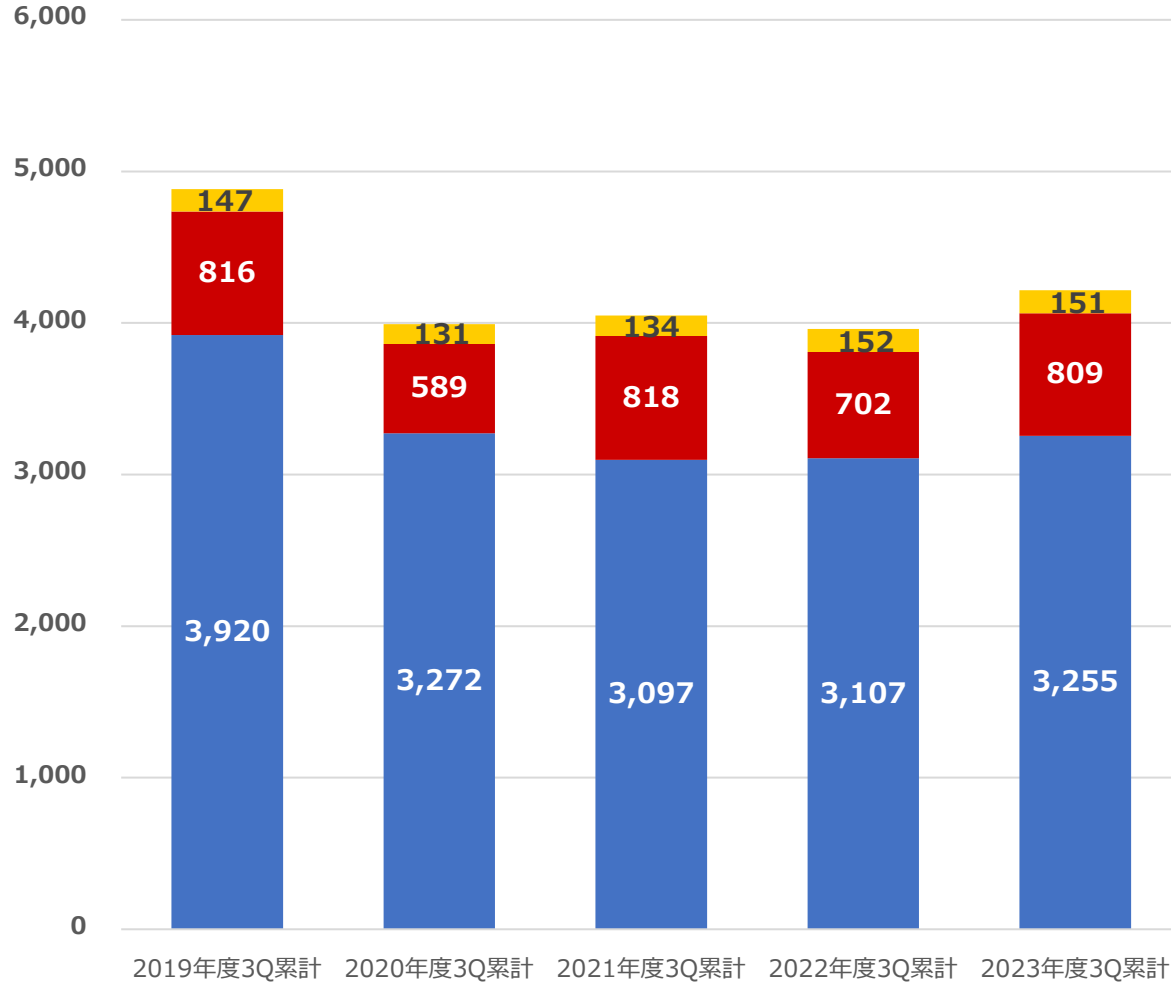


セグメント別営業利益と増減要因



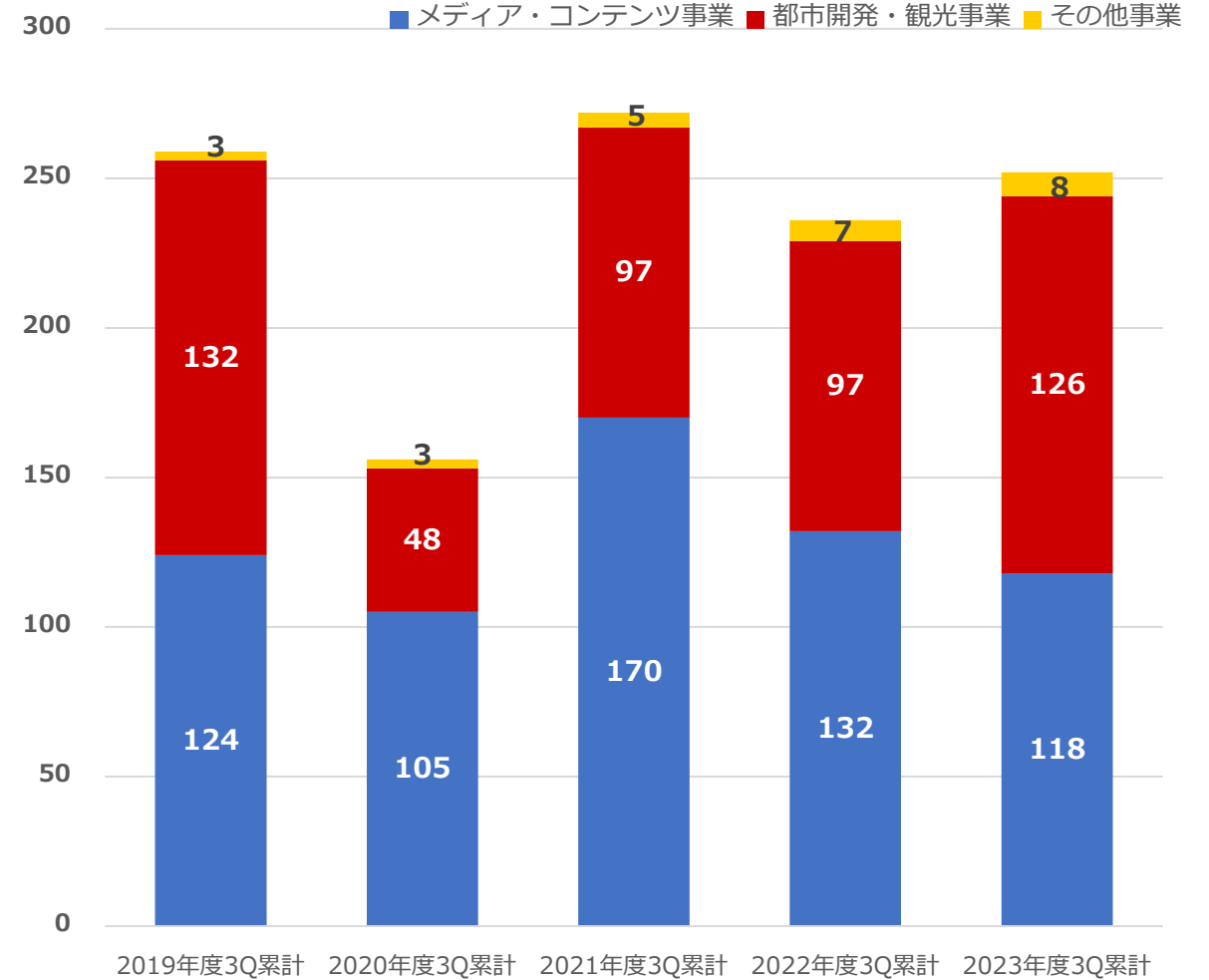
セグメント別売上高・営業利益推移

売上高



営業利益

(単位：億円)



営業外収益・費用の主な内容

持分法投資利益の減少は、関連会社における構造改革による費用計上等のため

(単位：百万円)

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	対前期増減	
営業外収益				
受取配当金	3,268	3,611	343	10.5%
持分法による 投資利益	2,488	958	▲1,529	▲61.5%
その他	2,069	2,091	22	1.1%
営業外収益合計	7,826	6,661	▲1,164	▲14.9%
営業外費用				
支払利息	1,092	1,330	237	21.7%
その他	314	545	230	73.3%
営業外費用合計	1,407	1,875	467	33.2%

特別利益・損失の主な内容

(単位：百万円)

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	対前期増減	
特 別 利 益				
投資有価証券売却益	155	713	557	357.6%
そ の 他	42	14	▲28	▲67.1%
特 別 利 益 合 計	198	727	528	265.9%
特 別 損 失				
固定資産除却損	116	166	50	43.4%
減 損 損 失	28	261	232	816.6%
そ の 他	276	277	1	0.5%
特 別 損 失 合 計	420	705	284	67.6%

メディア・ コンテンツ 事業



メディア・コンテンツ事業の決算のポイント

ビーエスフジ

増収増益

放送収入がタイム・スポット共に増収
費用コントロールも奏功し増益へ

放送収入が好調

タイムはレギュラー、単発堅調
スポットは新規通販等の出稿あり
効率的な番組費等の運用も寄与
3Q累計で過去最高の営業利益



ニッポン放送

増収減益



スポット増収
番組関連イベントや
グッズ販売が好調

スポットはIT関連等の出稿で増収
イベントは「オールナイトニッポン」関連等
番組連動の興行収入が好調
配信PF向けのコンテンツ販売も引き続き堅調
原価率が上昇し減益

フジクリエイティブコーポレーション

増収増益



制作受注の増加と
国内番販好調で増収

制作は3Qに大型スポーツイベント等の
受注あり
国内番販は午後帯向けの販売が好調で増収

ポニーキャニオン

増収増益

ノンパッケージ好調
売上の8割超え

配信、グッズ、イベント
配分金、番販等が
引き続き好調
費用増を増収でカバーし
増益



ジョン・ウィック：コンセクエンス
®、TM & © 2023 Lions Gate
Entertainment Inc. All Rights
Reserved.

DINOS CORPORATION

減収営業損失



消費動向の変化にあわせ
商材と販路の見直しへ

9月以降は単月黒字化
ファッションは復調基調継続
引き続き商品構成の見直しと
効率的な費用投下で
業績回復を目指す

クオラス

増収増益

エンタメをはじめ
多様な業種から発注堅調

OOH（屋外広告）やテレビ等の
広告売上が前期を上回る
クリエイティブやイベント関連等も
引き続き好調

メディア・コンテンツ事業 会社別概要

(単位：百万円)

	売上高			営業利益			営業利益率		
	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	前期比	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	前期比	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減
フジテレビジョン	176,486	179,671	3,185 (1.8%)	6,273	4,340	▲1,933 (▲30.8%)	3.5%	2.4%	▲1.1%
ビーエスフジ	11,702	12,101	399 (3.4%)	1,947	2,463	516 (26.5%)	16.6%	20.3%	3.7%
ニッポン放送	10,000	11,162	1,161 (11.6%)	500	396	▲104 (▲20.9%)	5.0%	3.5%	▲1.5%
フジクリエイティブ コーポレーション	10,455	11,336	880 (8.4%)	677	770	92 (13.6%)	6.5%	6.8%	0.3%
共同テレビジョン	9,270	11,414	2,143 (23.1%)	45	496	450 (986.1%)	0.5%	4.4%	3.9%

メディア・コンテンツ事業 会社別概要

(単位：百万円)

	売上高			営業利益			営業利益率		
	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	前期比	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	前期比	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減
ポニーキャニオン	24,476	27,191	2,714 (11.1%)	473	612	138 (29.3%)	1.9%	2.2%	0.3%
D I N O S CORPORATION	45,692	39,909	▲5,782 (▲12.7%)	303	▲564	▲867 (-)	0.7%	▲1.4%	▲2.1%
クオラス※	17,074	25,621	8,547 (50.1%)	751	1,223	471 (62.8%)	4.4%	4.8%	0.4%
その他及び セグメント内修正 等	5,292	7,117	-	2,568	2,101	-	-	-	-

※ クオラスの広告出稿の実取扱高を含めた売上高は前期35,195百万円、当期43,995百万円です。

フジテレビ



フジテレビ 決算のポイント

ポイント

放送・メディア：放送収入は減収だが、配信広告収入は好調で12月は初の単月売上10億円超
コンテンツ・ビジネス：デジタル、MD、アニメ開発等が好調で増収、粗利益も大幅増益
番組制作費：上期の放送収入の推移に対応して適切に運用、前年度のサッカーW杯の反動減もあり、減少

放送・メディア

放送収入：減収

■タイム

レギュラーは価格見直し等で減収
単発はサッカーW杯の反動で減収
ローカルはスポットとの機動的な枠の融通等で減収

■スポット

アルコール、化粧品・トイレタリー等の一部商材が牽引

その他放送・メディア収入：増収

■配信広告

前期比+44%、ナショナルクライアントの予約型広告の出稿好調
2年連続AVOD三冠（再生数、ユニークブラウザ数、視聴時間（2023年））
木10「いちばんすきな花」は全局の10月期のドラマで最多の再生数
10月期に新設したドラマ枠 金9「うちの弁護士は手がかかる」や
ドラマアーカイブ作品の戦略的な投入も奏功
バラエティも特番を含め視聴増に寄与

コンテンツ・ビジネス

映画：増収

■劇場公開

引き続き好調
「ミステリと言う勿れ」
興収 約48億円
「翔んで埼玉
～琵琶湖より愛をこめて～」
興収 23億円超



©2023 映画「翔んで埼玉」製作委員会

■2次利用

前年度ヒット作や
アーカイブ作品の配信等貢献

イベント：増収

■「アレグリア-新たなる光-」

大阪公演最終日の10月15日まで
大盛況、総来場者84.7万人達成

■「モネ 連作の情景」

展示作品の全てがモネ作品
国内外の60点展示、46万人超え



MD：増収

■物販

イベント関連の物販や配分金収入が好調

デジタル：増収

■FOD

有料会員増加基調継続
地上波連動や過去作投入等が奏功

アニメ開発：増収

■「ちいかわ」

配分金収入・MDなど好調

■海外番販・国内配信

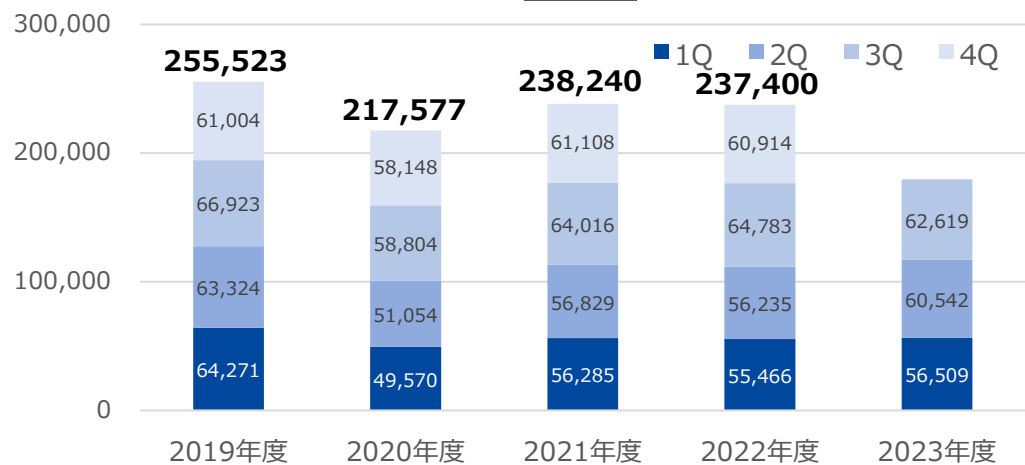
「王様ランキング勇気の宝箱」等
出資作品が貢献

フジテレビ決算概要

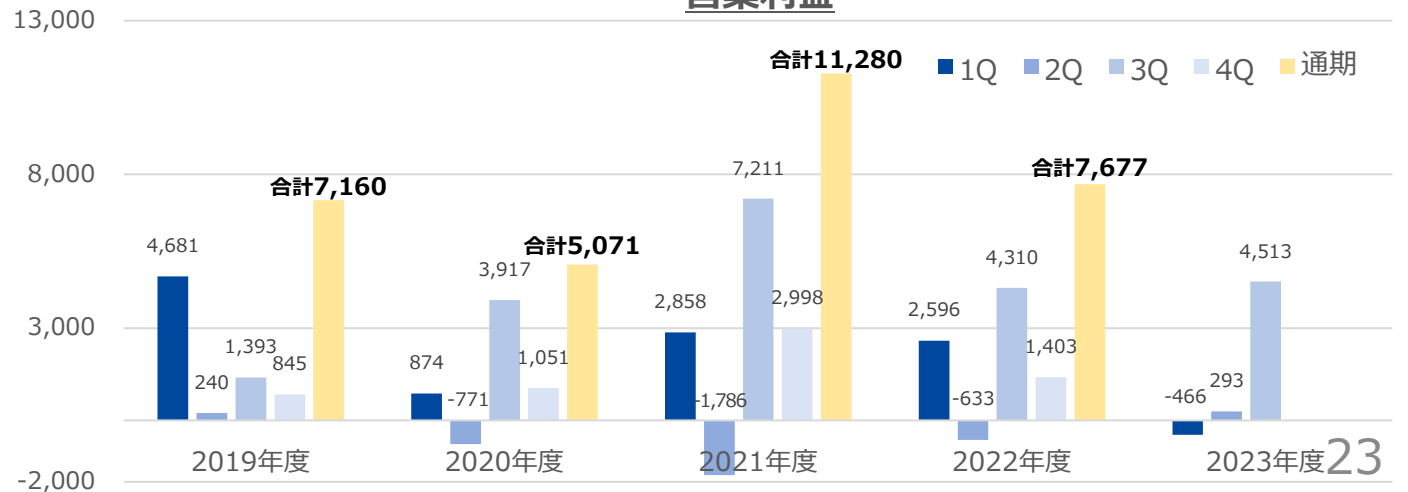
(単位：百万円)

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	対前期増減	
売上高	176,486	179,671	3,185	1.8%
営業利益	6,273	4,340	▲1,933	▲30.8%
経常利益	6,492	4,533	▲1,959	▲30.2%
四半期純利益	4,367	2,942	▲1,424	▲32.6%

売上高



営業利益



事業別の収入及び粗利益

(単位：百万円)

	事業別			計
		放送・メディア	コンテンツ・ビジネス	
収入	2023年度3Q累計	136,071	43,599	179,671
	2022年度3Q累計	146,548	29,937	176,486
	増減	▲10,477	13,662	3,185
	増減 (%)	▲7.1%	45.6%	1.8%
粗利益	2023年度3Q累計	35,043	12,489	47,532
	2022年度3Q累計	42,411	8,026	50,438
	増減	▲7,368	4,462	▲2,905
	増減 (%)	▲17.4%	55.6%	▲5.8%

粗利益率	2023年度3Q累計	25.8%	28.6%	26.5%
	2022年度3Q累計	28.9%	26.8%	28.6%

放送・メディア 収入と原価

(単位：百万円)

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	対前期増減	
放送・メディア収入	146,548	136,071	▲10,477	▲7.1%
放送収入	121,175	109,824	▲11,350	▲9.4%
ネットタイム	52,985	48,133	▲4,852	▲9.2%
ローカルタイム	8,022	7,512	▲509	▲6.4%
スポット	60,167	54,178	▲5,988	▲10.0%
その他の放送・メディア収入	25,373	26,246	873	3.4%
配信広告	3,641	5,257	1,615	44.4%
番組販売	11,677	11,327	▲349	▲3.0%
CS放送・その他	10,054	9,661	▲392	▲3.9%
放送・メディア原価	104,137	101,028	▲3,109	▲3.0%
放送・メディア粗利益	42,411	35,043	▲7,368	▲17.4%

スポット収入 業種別動向

9月下旬から回復基調の「アルコール」「化粧品・トイレタリー」「交通・レジャー・観光」のほか、「不動産・住宅設備」「外食・各種サービス」なども前年超えへ

(2023年4月～2023年12月) ※管理ベース

業種	前年シェア	当期シェア	対前期増減
情報・通信・放送	15.0%	13.0%	▲21.6%
化粧品・トイレタリー	10.6%	11.7%	0.3%
外食・各種サービス	8.6%	9.5%	0.4%
食品	8.4%	8.4%	▲8.7%
非アルコール飲料	6.9%	7.3%	▲4.0%
交通・レジャー・観光	4.5%	6.4%	28.6%
金融・保険	5.9%	5.8%	▲10.8%
医薬品・医療用品	5.1%	5.1%	▲9.9%
アルコール飲料	3.6%	4.9%	25.2%

業種	前年シェア	当期シェア	対前期増減
出版・エンタテインメント	4.9%	4.6%	▲13.2%
自動車・関連品	4.0%	4.1%	▲7.2%
流通・小売業	3.8%	4.0%	▲4.6%
事務・精密・光学機器	4.7%	3.7%	▲28.3%
不動産・住宅設備	2.4%	2.9%	8.6%
衣料・身回品・雑貨	4.3%	2.6%	▲46.0%
家電・AV機器	2.4%	2.1%	▲22.4%
電話サービス	1.5%	1.5%	▲11.1%
エネルギー・機械	0.8%	0.5%	▲47.6%
その他	2.7%	2.0%	▲33.4%

番組制作費

GP帯を中心に、放送収入に加え、配信広告収入やデジタル事業等にも活用できるコンテンツへ投下
3Q以降は放送収入の推移も見て適切に運用、3Qは前年の「サッカーW杯」の反動減あり

(単位：百万円)

	2022年度	2023年度	対前期増減	
第1四半期	15,742	17,000	1,257	7.9%
第2四半期	17,753	17,320	▲432	▲2.4%
上期	33,496	34,321	824	2.5%
第3四半期	20,544	17,151	▲3,392	▲16.5%
第4四半期	18,076			
下期	38,621			
通期	72,117			

※自社制作番組及び購入番組の直接費

コンテンツ・ビジネス 収入と原価

(単位：百万円)

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	対前期増減	
コンテンツ・ビジネス収入	29,937	43,599	13,662	45.6%
催物事業収入	3,615	12,191	8,576	237.2%
映画事業収入	8,622	8,205	▲416	▲4.8%
デジタル事業収入	8,943	10,664	1,720	19.2%
MD事業収入	2,506	4,698	2,191	87.4%
アニメ開発事業収入	1,681	2,821	1,140	67.8%
ビデオ事業収入	849	1,282	432	50.9%
その他の収入	3,718	3,736	18	0.5%
コンテンツ・ビジネス原価	21,910	31,110	9,200	42.0%
コンテンツ・ビジネス粗利益	8,026	12,489	4,462	55.6%

販管費及び営業外損益概要

(単位：百万円)

	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	対前期増減	
販売費及び 一般管理費	44,164	43,192	▲972	▲2.2%
販売費	31,548	31,058	▲490	▲1.6%
一般管理費	12,615	12,134	▲481	▲3.8%
営業費用合計	170,212	175,330	5,118	3.0%
営業利益	6,273	4,340	▲1,933	▲30.8%
営業外収益	361	402	41	11.5%
営業外費用	142	209	66	47.0%
経常利益	6,492	4,533	▲1,959	▲30.2%

配信関連（配信広告とデジタル事業）

（単位：百万円）

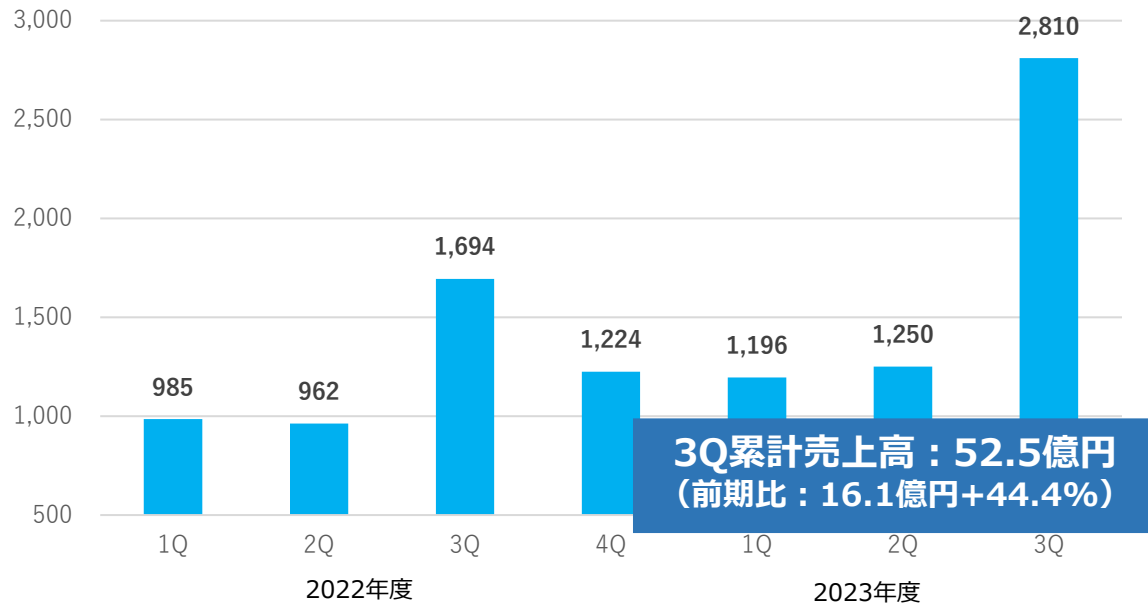
3種類の
配信関連
ビジネス

- ①配信広告：「TVer」を通じたAVOD
- ②デジタル事業：「FOD」のSVOD、「FNNプライムオンライン」の広告とコンテンツ販売
- ③その他：「映画事業」や「アニメ開発事業」等による配信PF向けコンテンツ販売

実績

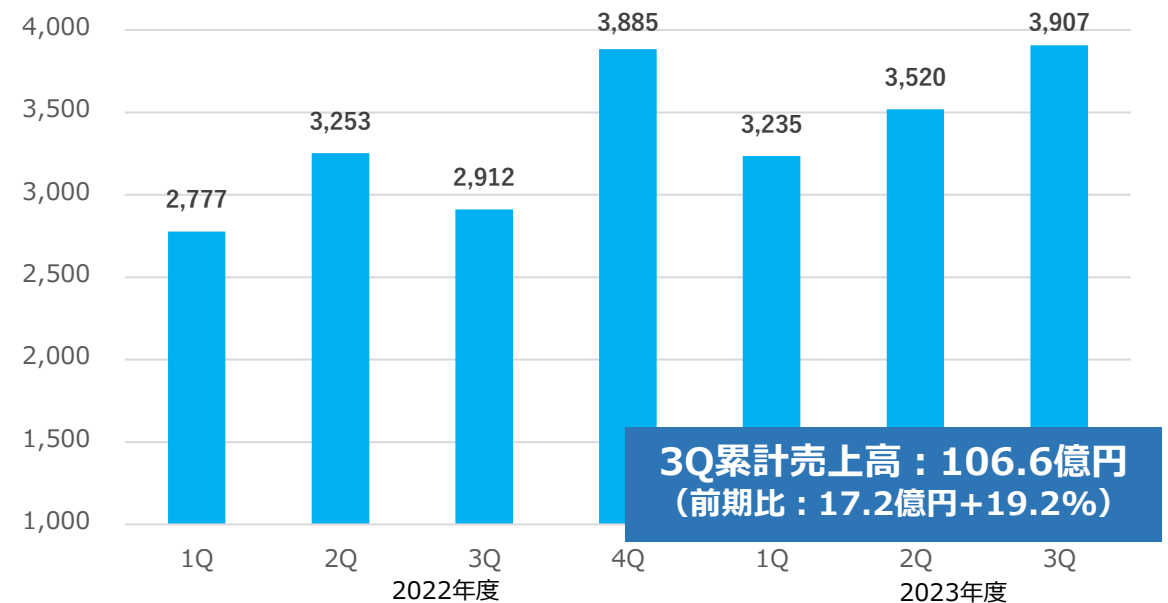
- ①と②：合計で早期に年間売上高200億円を目指す中、3Q累計で159.2億円に
- ①：2年連続AVOD三冠、配信広告収入は12月単月で10億円超え、ユーザー、広告主ともに認知拡大
- ③：前年のヒット作品に加えて、多数のライブラリー作品の販売が貢献

配信広告売上高



前年度3Qはドラマ「silent」等による急成長あり
今年度もドラマ「いちばんすきな花」等による再生数増と
広告主へのTVerへの認知拡大の相乗効果で増収

デジタル事業売上高



FODの作品ラインナップの拡充が奏功し
有料会員数は2022年11月に100万人を突破、その後も増加が継続
FNNプライムオンラインの平均月間PV数は約1.1億（2022年12月～2023年11月）

都市開発・ 観光事業



サンケイビル（都市開発）の決算のポイント

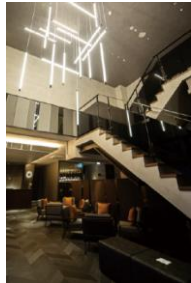
ポイント

増収増益

賃貸事業は、レジデンス「ルフォンプログレ」シリーズ、オフィス、ホテル「アロフト東京銀座」の高稼働等
販売・売却事業は、オフィス「レジディア京橋」ホテルコンドミニアム「BRISTIA箱根仙石原」等の売却で増益

賃貸事業：増収増益

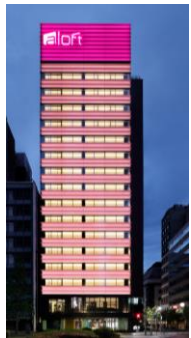
住宅等



グリッツプレミアムホテル
大阪なんば

- ルフォンプログレ
2022年後半に竣工した物件等の高単価での稼働
- グリッツ
国内外観光客向け宿泊施設「グリッツ東京上野駅前」やライフスタイル型ホテル「グリッツプレミアムホテル大阪なんば」の稼働率向上による賃料増

オフィス等



アロフト東京銀座

- オフィス
大阪「本町サンケイビル」の好調な稼働継続
「西梅田サンケイビル」内ホテルの稼働率向上による賃料増
- ホテル
「アロフト東京銀座」がインバウンドの回復等もあり高稼働

開発



- 物流施設「川越市物流施設」
2023年11月取得
サンケイビル初の物流施設再生事業
敷地面積約5,704㎡・延床面積約4,780㎡
S造（一部RC造）、地上2階建

販売・売却事業：増収増益

住宅等



ルフォン松戸北小金

レジデンス「ルフォン松戸北小金」オフィス「レジディア京橋」
ホテルコンドミニアム「BRISTIA箱根仙石原」等の売却で増益

- 新築分譲マンション
「ルフォン松戸北小金」（60戸）
- 投資家向け賃貸マンション
「ルフォンブランシェ西宮」（118戸）

オフィス等



BRISTIA箱根仙石原

- 「レジディア京橋」（52戸）
敷地面積 1,440.11㎡
延床面積 2,025.05㎡
- ホテルコンドミニアム・ホテルレジデンス
「BLISSTIA箱根仙石原」
2023年11月竣工・63室
敷地面積6,746.22㎡
延床面積6,205.16㎡

グランビスタ ホテル&リゾート (観光)・その他のポイント

ポイント

増収増益 連結以来、過去最高の営業利益
ホテル事業は国内需要とインバウンド需要で本格的に回復、海洋レジャーも堅調に推移

グランビスタ ホテル&リゾート：増収増益

その他：増収営業損失

ホテル



札幌グランドホテル

引き続き回復基調

- 国内観光需要の拡大とインバウンドの更なる回復で稼働率、平均単価ともに前期比を上回る
- 札幌は、国際線がコロナ前の水準に戻らない中で、前年比増収料飲も前期を上回り、徐々に回復
- 「インターゲートホテルズ」は、東京・京都・大阪等で国内観光客とインバウンドの需要を取り込み、前年比増収
- 原価は世界情勢や為替等の影響あるも期初計画の範囲内に抑制、人手は十分ではないが確保

引き続き堅調

- 「鴨川シーワールド」はコロナ禍の前年度の高実績に対しやや落ち着きながら堅調に推移
- 須磨海浜水族園は、今年6月の「神戸須磨シーワールド」としてのリニューアルオープンに向け、再開発進行中2023年9月に先行オープンしたにぎわい施設は盛況

(海洋レジャー等) その他



鴨川シーワールド

■サンケイビルマネジメント

保守清掃警備事業での受注した物件の稼働や新規物件の受注増加

建築内装工事業務における原状回復工事等の内装工事受注拡大での収入増

仲介案件成約による仲介手数料収入増

■サンケイビルウェルケア

入居者増や家賃収入増等で増収

■サンケイビルテクノ

建設エンジニアリングで損失あり



都市開発・観光事業 決算概要

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	前期比	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	前期比
サンケイビル	39,784	44,176	4,392 (11.0%)	7,486	10,009	2,522 (33.7%)
グランビスタ ホテル&リゾート	18,667	23,712	5,044 (27.0%)	1,001	3,131	2,130 (212.8%)
その他及び セグメント内 修正等	11,809	13,073	—	1,235	▲477	—

営業利益率		
2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減
18.8%	22.6%	3.8%
5.4%	13.2%	7.8%
—	—	—

■参考：サンケイビルグループ連結事業別内訳（FMHとは連結対象が異なります）

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	前期比	2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	前期比
賃貸事業	15,783	18,123	2,339	3,404	4,384	979
販売・売却事業	23,956	26,075	2,119	5,268	6,967	1,698
ホテルリゾート 事業	19,135	25,500	6,365	927	3,090	2,163

営業利益率		
2022年度 3Q累計	2023年度 3Q累計	増減
21.6%	24.2%	2.6%
22.0%	26.7%	4.7%
4.8%	12.1%	7.3%

1

2024年3月期
第3四半期決算概要

2

2024年3月期
通期業績予想とトピックス

3

株主への利益還元

4

中期グループビジョンを通じた
資本効率向上への取り組み

5

サステナビリティの取り組み

6

参考資料



FUJI MEDIA HOLDINGS, INC.

2024年3月期通期 連結業績予想（修正なし）

（単位：百万円）

	2023年3月期 通期	2024年3月期 通期予想	対前期増減	
売上高	535,641	557,700	22,059	4.1%
営業利益	31,401	32,000	599	1.9%
経常利益	39,053	39,300	247	0.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	46,855	26,000	▲20,855	▲44.5%

【フジテレビ】地上波テレビ広告収入の通期見込み（修正なし・前期比）

	今回予想	前回予想
ネットタイム	▲0.4%	▲0.4%
ローカルタイム	+0.7%	+0.7%
スポット	▲11.8%	▲11.8%
放送収入合計	▲6.1%	▲6.1%

2024年3月期通期 セグメント別業績予想 (修正なし)

(単位：百万円)

	事業セグメント			合計	調整額	連結損益 計算書 計上額	
	メディア・ コンテンツ 事業	都市開発・ 観光 事業	その他 事業				
売上高	2024年3月期 通期予想	441,800	113,300	19,100	578,100	▲16,500	557,700
	2023年3月期 通期実績	420,836	108,841	20,394	550,072	▲14,430	535,641
	増減率	4.9%	4.1%	▲6.3%	5.1%	—	4.1%
営業利益	2024年3月期 通期予想	20,500	12,900	700	34,100	▲2,100	32,000
	2023年3月期 通期実績	17,484	15,070	931	33,487	▲2,086	31,401
	増減率	17.3%	▲14.4%	▲24.8%	1.8%	—	1.9%

設備投資計画と減価償却費（修正なし）

REITとの資産の入れ替えも含めて投資を実施

トータルで都市開発・観光セグメントのバリューアップを目指す

（単位：百万円）

		2024年3月期		2025年3月期
		3Q累計 （実績）	通期 （計画）	通期 （計画）
設備投資額	連 結	37,127	97,700	62,500
	フジテレビ	3,524	10,000	6,000
	都市開発・観光事業	31,190	83,300	51,700
	フジ・メディアHD	669	2,500	3,000
減価償却費	連 結	13,386	19,300	20,400
	フジテレビ	4,373	6,600	6,900
	都市開発・観光事業	5,095	7,400	8,300
	フジ・メディアHD	1,405	2,000	2,300

フジテレビ 今後のトピックス

引き続きTVerとFODを中心とした配信関連や、映画の劇場公開・二次利用、アニメのMDや映画化などさまざまな方法で「コンテンツで稼ぐ」方針を推進

放送・メディア

タイムテーブル 23年10月 秋の改編 「やっぱり、楽しくなければフジテレビじゃない」



- **レギュラー**：平日のG帯を中心に強化
改編した水曜と金曜の視聴率が上昇
新設した金曜ドラマ枠も好調に推移
「千鳥の鬼レンチャン」「新しいカギ」等
好調の土曜・日曜と合わせて視聴率を底上げ
- **単発**：第4四半期は「世界フィギュア」等
実績のあるスポーツ単発等を予定

放送収入 配信広告収入 放送収入はスポットの回復に期待 配信広告は引き続き成長へ

- **放送収入**：
スポットは一部業種の商材に復調の兆し
酒税改正に伴うアルコール（ビール）、インバウンド向けの化粧品・
トイレタリー（化粧品）、半導体不足が解消した自動車（一部車種）等
- **配信広告収入**：
スポンサーが拡大
ドラマ枠の新設等でラインナップを拡充、一層の成長を目指す

コンテンツ・ビジネス

映画 劇場公開と配信権販売の 2本柱



- **劇場公開**：
「翔んで埼玉
～琵琶湖より愛をこめて～」
(2023年11月23日公開) 好調
「サイレントラブ」
(2024年1月26日公開)
- **配信権販売**：前年度のヒット映画や
ライブラリー作品の配信販売を進め
更なる収益拡大を目指す

デジタル (FOD) 地上波と連携し 会員数の増加へ



- **FOD**：
2023年オリコン顧客満足度®
調査「定額制動画配信」
ランキング「国内ドラマ」
「邦画」の2部門で1位を獲得
今後も、作品のクオリティ、
ボリューム共、ラインナップの
更なる充実を目指す
CTV対応も強化し、主要メーカー
のテレビリモコンにFODボタン
を搭載予定

アニメ 「ちいかわ」人気続く レギュラー枠の強化



©高橋留美子・小学館/
アニメ「うる星やつら」製作委員会

- **ちいかわ**：
引き続き人気
コラボやイベント等での
好調な推移を期待
- **レギュラー放送枠**：
「ノイタミナ」「+Ultra」
「B8station」の三枠で
収益の拡大を目指す

メディア・コンテンツ事業 今後のトピックス

ポニー キャニオン 国内外への配信・番販、イベント等
パッケージ以外で更なる成長へ

■方向性

音楽・アニメのクリエイティブ強化を図り、
国内外への配信・番組販売、イベントなどでの収益拡大を目指す

■アニメ

- 「魔都精兵のスレイブ」
2024年1月放送開始
「少年ジャンプ+」の人気作品
- 「響け！ユーフォニアム」
2024年4月放送開始予定
京都アニメーション制作作品の第3弾
- 「キン肉マン完璧超人始祖編」
2024年放送開始予定 18年ぶりとなる新作アニメ



「魔都精兵のスレイブ」2024年1月放送
©タカヒロ・竹村洋平/集英社・魔防隊広報部



「響け！ユーフォニアム3」2024年4月放送開始予定
©武田綾乃・宝島社/『響け！』製作委員会2024

■映画

- 「エクスペンダブルズ ニュー・ブラッド」
(2024年1月5日公開開始)
- 「松居大悟監督 最新作」
(2024年5月10日公開予定)
- 「チェッカーズ 1987 GO TOUR
at 中野サンプラザ
【デジタルレストア版】
(2024年春 全国2週間限定上映)



「エクスペンダブルズ ニュー・ブラッド」2024年1月5日公開開始
© 2022 Ex4 Productions, Inc.



「チェッカーズ 1987 GO TOUR at 中野サンプラザ
【デジタルレストア版】」3月1日公開
©THREE STAR PRO/COM ©PONY CANYON INC.

■投資

地上波、BS、配信などに展開できるアニメ向け投資を継続

DINOS CORPORATION 商品開発強化と売場構成の見直し
販売促進費用の配分調整を実施

■方向性

消費者の変化を捉え、商品構成と販売ツールを見直し
商品開発・品揃えの見直し、費用配分の効率化などで収益確保へ

■商品構成

- インテリア・生活雑貨
世界中から厳選したキッチンブランドやSNSのアンケートから
生まれた商品など、よりユーザーニーズを意識したラインナップ
- 寝具
「ストレートネックの人のための枕」などの年間定番アイテムの
開発・強化
- 食品
地域の名産や人気の名店お取り寄せグルメなどの新商品を投入

■販路

- テレビ通販
商品ラインナップにジュエリーを投入
通販特番における商品ラインナップの強化
- カタログ通販
カタログ発行内容の最適化
(商品構成・発行規模/部数等の見直し)
Webコンテンツ・商品訴求の更なる充実



サンケイビル（都市開発） 今後のトピックス

賃貸事業

住宅等



ルフォンプログレ西大井プレミア
2024年1月竣工・135戸
JR 横須賀線「西大井」駅徒歩3分
シングルからファミリーまで対応可能な
多彩なプランバリエーション
ランドリー等の共用施設が充実



**ルフォンプログレ堺筋本町
タワーレジデンス**
2024年1月竣工・169戸
Osaka Metro中央線・堺筋線「堺筋本町」駅
「谷町四丁目」の両駅へアクセス可能



ルフォンプログレ押上EAST
2024年1月竣工・90戸
「押上」駅「曳舟」駅ほか3線3駅
暮らしやすく使いやすい効率性の高いプランで
構成されたプライベートスペース

オフィス等



物流施設「MCUD 南吹田」
2023年11月竣工
敷地面積34,826㎡ 延床面積85,916㎡
大阪府中心部に至近な物流開発用地
北摂地域や尼崎方面の市街地へのアクセスに
優れ、四方を消費地に囲まれた希少性の高い
物流適地に立地

販売・売却事業

分譲



ルフォン松戸北小金
2023年10月販売開始・60戸
23年12月下旬より引き渡し開始予定
JR常磐線「北小金」駅徒歩3分
大手町へ直通の交通至便なエリア



ルフォン上野松が谷
2024年9月竣工予定
2024年11月引き渡し予定・34戸
7駅16路線が利用可能で、東京・
日本橋・銀座などのへアクセス良好
23年11月よりサンケイビルとしては
初めてのVRモデルルームオープン

投資家向け

学芸大学
2024年2月竣工予定・31戸
東急東横線「学芸大学」徒歩6分
賃貸マンション：シングル・DINKS向け

浅草橋三丁目プロジェクト
2024年4月竣工予定・49戸
賃貸マンション・店舗1区画
DINKSファミリー向け49戸・シングル向け23戸

グランビスタ（観光）等 今後のトピックス

グランビスタ ホテル&リゾート

ホテル事業

国内観光客と インバウンドで更なる成長へ

■ 札幌グランドホテル 札幌パークホテル

新千歳空港を発着する国際線の回復に期待

■ インターゲートホテルズ

京都、東京、広島、金沢、大阪で
国内観光客とインバウンド観光客の利用が
好調に推移、更なる成長を期待



札幌パークホテル



インターゲートホテル大阪

海洋レジャー事業

神戸須磨シーワールド 今年6月開業へ開発進行中

■ 施設概要

- 水族館：神戸須磨シーワールド
- 宿泊：神戸須磨シーワールドホテル
(他駐車場など)

■ 開発区域

約101,900㎡

■ 開業予定

- 水族館・宿泊施設：2024年6月



神戸須磨シーワールドイメージ

その他

■ サンケイビルマネジメント

主力の保守清掃事業での
新規物件の受注獲得へ

サンケイビルと連携し
保有物件内での入退去等に対応

■ サンケイビルウェルケア

新規入居者向けに理学療法士や
言語聴覚士など4つの国家資格保有者が
連携してサポートを展開



ウェルケアヒルズ馬事公苑

1

2024年3月期
第3四半期決算概要

2

2024年3月期
通期業績予想とトピックス

3

株主への利益還元

4

中期グループビジョンを通じた
資本効率向上への取り組み

5

サステナビリティの取り組み

6

参考資料



株主への利益還元：配当

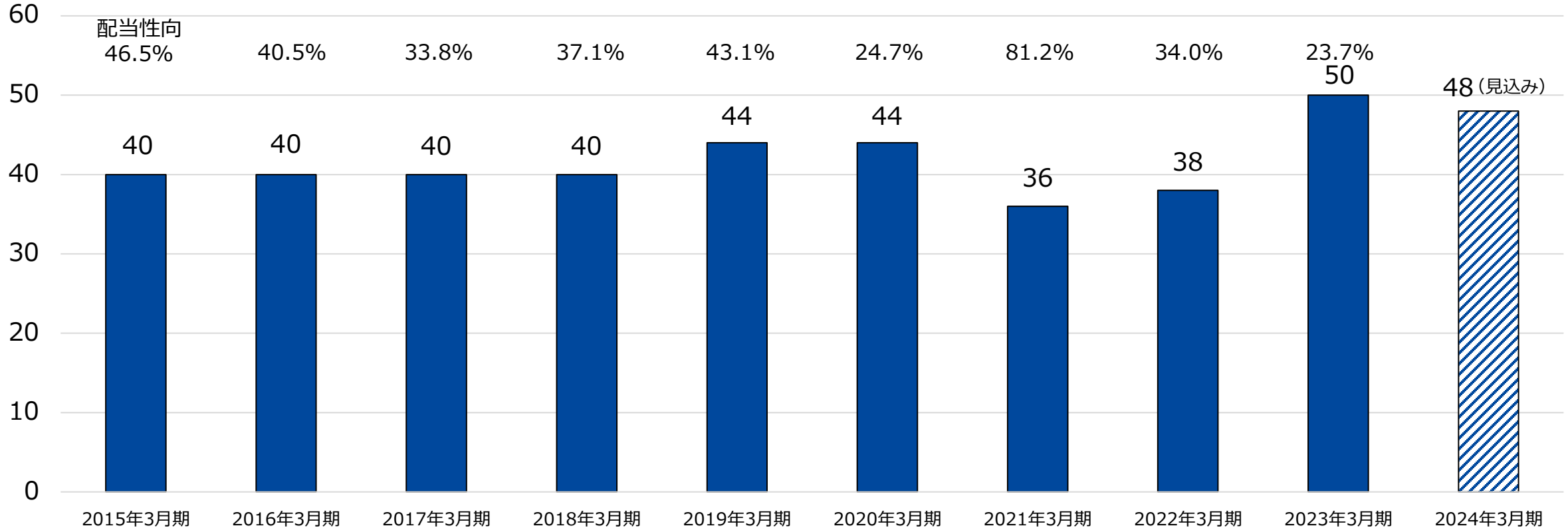
還元方針

■ 2024年3月期 年間配当48円（見込み）

連結ベースの配当性向40%を基本に、配当の安定性等を考慮して決定

■ 自己株式取得を2024年3月までに100億円を上限に実施中

2024年1月末現在：取得株式数：564万株・株式の取得価額総額：85億円



※2019年3月期の年間配当には、普通配当40円以外に認定放送持株会社移行10周年及び（株）フジテレビジョン開局60周年記念配当4円が含まれております。

2023年3月期の年間配当には、普通配当40円以外に認定放送持株会社移行15周年及び（株）フジテレビジョン開局65周年記念配当10円が含まれております。

※名義書換を拒否した外国人に対する配当金の支払いについて

当社は放送法の規定により議決権割合20%以上となり株主名簿への記載を拒否する外国人に対しても配当の支払いを行っております。

1

2024年3月期
第2四半期決算概要

2

2024年3月期
通期業績予想とトピックス

3

株主への利益還元

4

**中期グループビジョンを通じた
資本効率向上への取り組み**

5

サステナビリティの取り組み

6

参考資料

“ 拡がる ”
フジ・メディア・ホールディングス

中期グループビジョン
2023

2023年5月



フジ・メディア・ホールディングス

中期グループビジョン概要

業績目標

「人々が心を潤し、生活を豊かにするすべてのもの」を「コンテンツ」と捉え一人ひとりの生活スタイルに適ったメディア・販路・提供手段で届けることで
2025年度に連結営業利益400億円を目指す

事業の 方向性

■メディア・コンテンツ事業

2025年度営業利益目標：240億円

- ・生活者との接点の拡大と創出
- ・コンテンツ制作の体制強化
- ・コンテンツ強化への投資加速

■都市開発・観光事業

2025年度営業利益目標：180億円

- ・都市開発：アセットタイプの拡大や大規模開発の発掘
- ・観光：国内観光需要・インバウンド回復の取り込み
- ・一定の財務規律のもとでの投資の拡大

財務の 方向性

成長のための投資を継続・株主還元を重視し資本収益性の向上へ

- ・バランスシートの見直しと戦略的活用により、**成長投資を推進**
- ・成長投資への活用に向け、「**政策保有株式**」を投下資本の**20%以下**への減少を目指す
- ・成長投資に向け、**連結自己資本比率50%**を下限に、**外部借入を拡大**
- ・安定的な配当の継続と、機動的な自己株取得の検討により、**株主還元をさらに強化**
- ・資本収益性の向上と成長期待・株主還元の推進で**PBR上昇を目指す**

非財務の 方向性

ガバナンス体制の向上・人的資本の強化、サステナビリティの推進

- ・経営諮問委員会の設置
- ・女性管理職比率の向上
- ・成長戦略実現や新たな価値創造に貢献できる多様な人財の獲得・育成
- ・2050年のカーボンニュートラル実現を目標に

中期グループビジョンの進捗状況

メディア・コンテンツ事業の成長戦略 (ビジョンP.5)

■ 生活者との接点の拡大と創出：配信ビジネスの更なる拡大

- ・ フジテレビ：配信広告収入の成長（対前期比+44.4%）、デジタル事業収入増（同+19.2%）
Spotify とパートナーシップを構築し、オリジナル音声コンテンツの配信を開始
- ・ ポニーキャニオン・フジパシフィックミュージック：ユーザーの音楽配信サービスの利用増加に伴う著作権収入拡大
- ・ ニッポン放送・扶桑社：自社コンテンツのサブスクサービスへの取り組み本格化

■ コンテンツ強化へ投資促進

- ・ ポニーキャニオン：アニメや映画等への投資継続

都市開発・観光事業の成長戦略 (ビジョンP.6)

■ 国内観光需要及びインバウンドの回復を取り込み

- ・ サンケイビル：稼働増に伴うホテル向け賃貸事業が引き続き好調、賃料収入増収に寄与
- ・ グランビスタ：ホテル事業の業績回復基調が継続

■ 成長投資を拡大

- ・ サンケイビル：増資の200億円とサステナブルリンクローン総額551億円の借入を活用し、多様なアセットへの投資を促進
- ・ グランビスタ：2024年6月開業予定「神戸須磨シーワールド」「神戸須磨シーワールドホテル」の開発へ投資加速



株主還元 (ビジョンP.7)

■ 自己株式取得の推進（2024年1月31日現在）

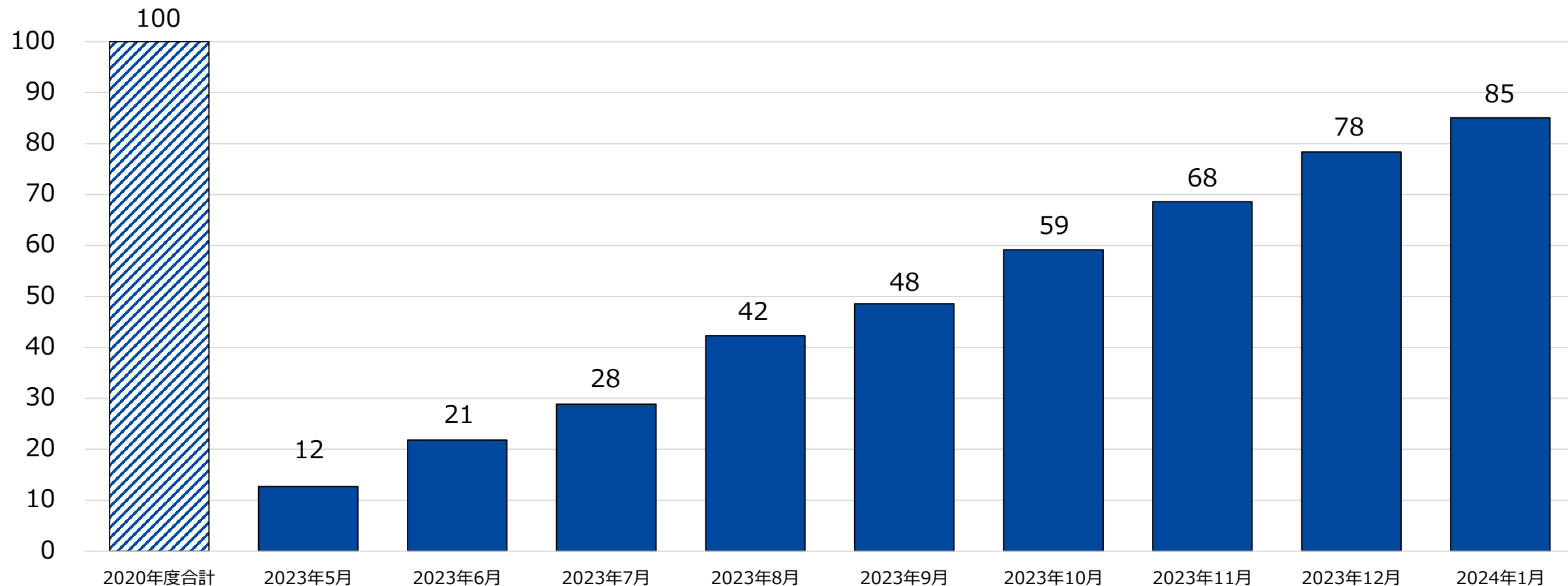
取得株式総数：5,648,900株・株式取得価額総額：85億円

株主への利益還元：自己株式取得

方針

機動的な自己株式取得等の資本政策を遂行し、資本効率を高めることで株主利益の向上を図る
2020年度に100億円の自己株式取得を実施済

■ 自己株式取得総額（単位：億円）

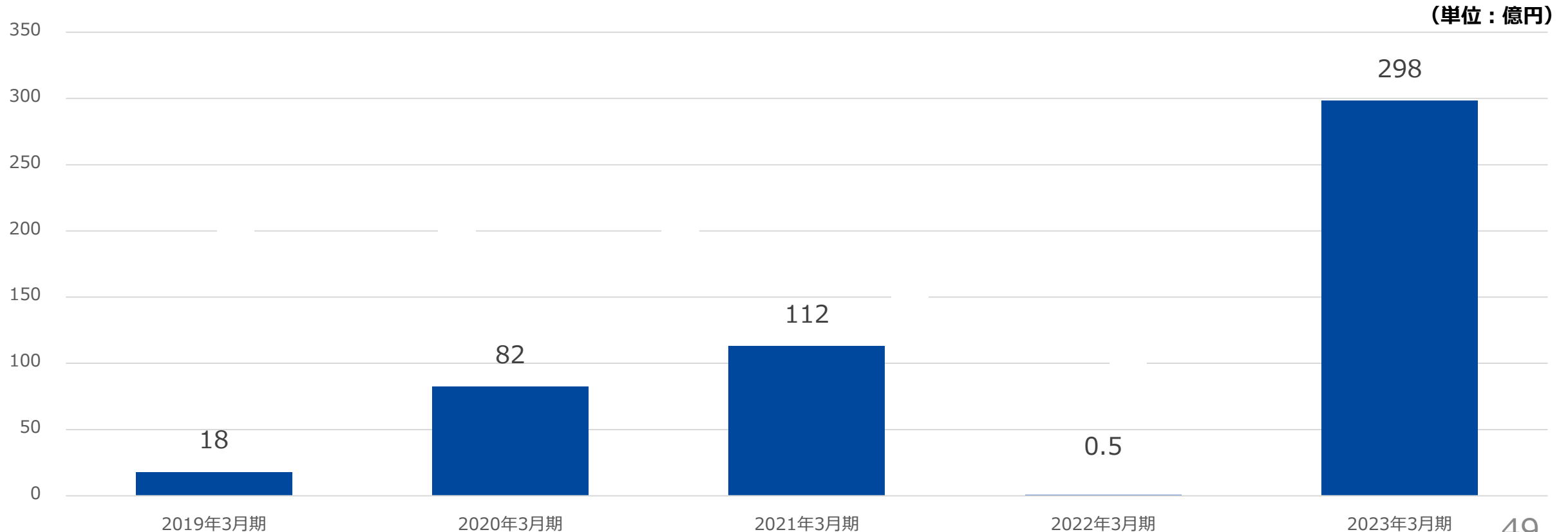


政策保有株式

考え方

取締役会において、銘柄ごとに、当社グループとの取引関係や規模、当該企業の業績や配当、株価などの定量的な側面も考慮の上、保有の合理性・必要性を検証。保有意義の希薄化が認められる銘柄等については、縮減の対象として検討

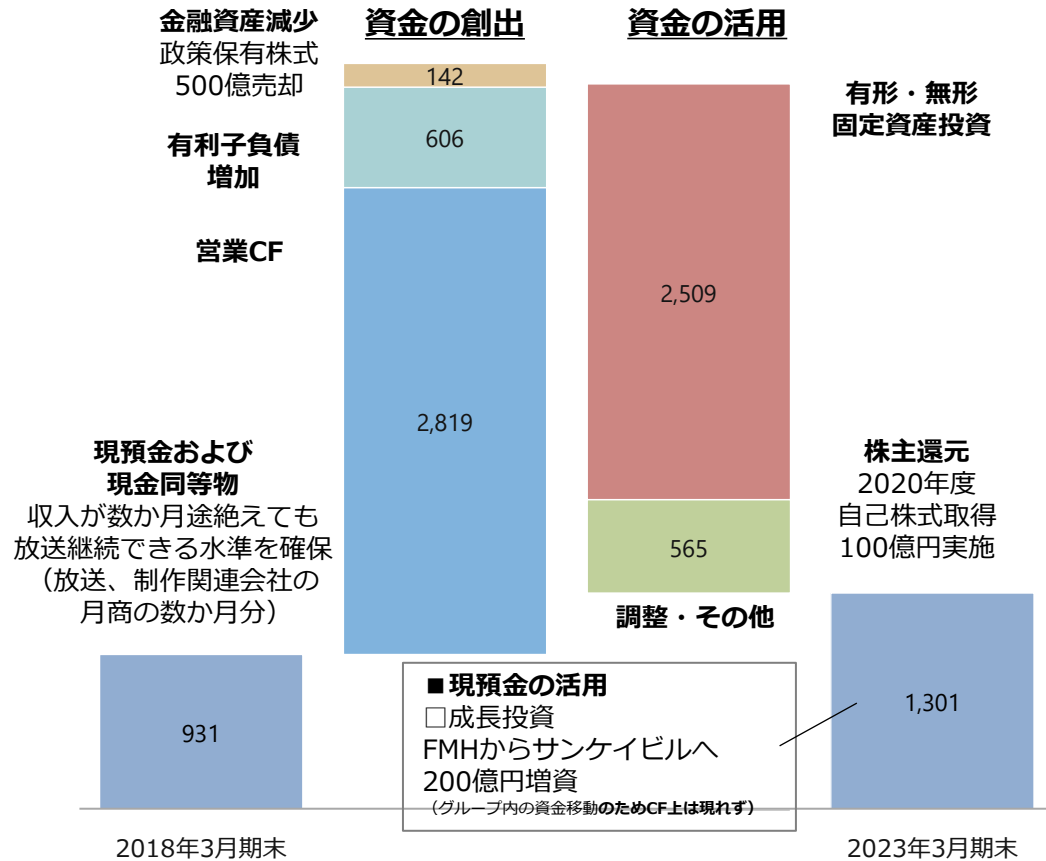
過去5年間で約500億円の縮減



キャピタルアロケーション

保有資産を成長投資と株主還元を活用

■ 直近5年のキャッシュフロー



■ 設備投資実績

(単位: 億円)

	メディア・コンテンツ	都市開発	その他
19年3月期	本社ビル土地 (底地) 取得 放送機材の取得 スタジオ設備・ 物流関連設備の改修・更新 242	オフィスビル、ホテル及び シニア施設開発用地の取得 464	事務用機器などの リース資産の取得 6
20年3月期	放送機材の取得 スタジオ設備の更新 中継車等のリース資産の取得 132	ホテル、オフィスビル及び シニア施設の取得 247	事務用機器などの リース資産の取得 5
21年3月期	編集用設備の更新 放送機材の取得 スタジオ設備の更新 60	オフィスビル建設、賃貸物件 及びホテルの開発用地取得 359	事務用機器などの リース資産の取得 2
22年3月期	スタジオ設備・ 放送用回線設備の更新 放送機材の取得 55	オフィスビル建設や 賃貸物件開発用地の取得 320	事務用機器などの リース資産の取得 2
23年3月期	スタジオ設備の更新 放送機材の取得 57	オフィスビルや 賃貸レジデンス の開発用地等の取得 450	事務用機器などの リース資産の取得 5
合計	547	1,842	22

*有価証券報告書の「設備投資等の概要」から引用した数値であり、キャッシュフロー計算書上の有形・無形固定資産投資の数値とは異なります。

資本収益性の
向上策

中期グループビジョンに基づく今後の方針を改めて開示する予定

1

2024年3月期
第3四半期決算概要

2

2024年3月期
通期業績予想とトピックス

3

株主への利益還元

4

中期グループビジョン
の取り組み

5

サステナビリティの取り組み

6

参考資料

サステナビリティの取り組み

【フジ・メディア・ホールディングス】
「グループ人権方針」
の策定

■グループ人権方針策定の背景

人権尊重への一層の意識向上と体制の充実、また、取引先を含むステークホルダーの皆様と共に、人権等に関する取り組みを強化していくために策定。引き続き放送の公共的使命と社会的責任を常に認識し、幅広い事業活動を通じて国民の皆様の豊かな生活に貢献するとの経営の基本方針のもと、社会から信頼していただけるグループであることを目指す。また、常に法令の順守と、コンプライアンス体制の確立に努めるとともに、「人権方針」のもと人権を尊重した事業活動を進める。

■概要

本方針は、当社グループの全ての役員と従業員に適用され、また、グループ企業のビジネスパートナーに対しても本方針に沿った人権尊重を期待。「人権尊重に関連する規範や法令の遵守」「人権尊重へのコミットメント」「人権デューデリジェンス」「ステークホルダーとの対話」「是正・救済」「情報開示」などに関する方針をまとめている。

【フジテレビ】
防災・減災に向けて
横浜市と連携協定締結

■今後起きうる災害に備え、地域の防災力向上に貢献

協定第一弾は、横浜市の「防災・減災推進研修」で、被災地を長年取材してきたディレクターによる研修や、防災士の資格を持ちキャスターとして日々現場を取材するアナウンサーによる発災直後等の映像を用いた状況解説などを実施。今後は、親子で楽しく学べる防災プログラムの実施等も検討。



サステナビリティの取り組み

【サンケイビル】
サステナビリティ
リンクローンを
活用した開発推進
「SANKEILOGI府中」

■サステナビリティ・リンク・ローン (SLL)

SLLは、借り手の経営戦略に基づくサステナビリティ目標と連携したサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット(SPT)を設定し、貸付条件とSPTの達成状況を連動させ、借り手に目標達成に向けた動機付けを促し、環境・社会の面から持続可能な事業活動や成長を支援する仕組み。2023年9月までに本方式で総額551億円を調達

■SLLで調達した資金による開発 「SANKEILOGI府中」

2024年9月の竣工を目指し、太陽光発電や省エネ、長寿命のLED照明を設置し、消費エネルギーを効率化環境や省エネルギーに配慮した設備導入による気候変動対策として外壁サンドイッチパネルや屋根W折板を採用さらに、敷地内に現存している府中市の遺跡登録を受けた塚を保存し一般に開放



■取り組みの概要

音楽家の坂本龍一さんが創立した森林保全活動に取り組む一般社団法人more treesとともに、長野県木曾町・開田高原に『ディノスの森』として多様性のある森づくりを開始。また、これに伴い木曾町との間で、森林保全を通じた地方創生事業に関する連携協定を締結



■森林保全活動には2つの柱

引き続き国産材商品のラインアップを充実させていくことに加えさらなる積極的な森林保全アクションとして、そして脱炭素につながるアクションとして、今回の植林活動を実施

【DINOS CORPORATION】
『ディノスの森』
植林活動をスタート

未来につながる、森づくり。

dinos
ディノスの森

1

2024年3月期
第3四半期決算概要

2

2024年3月期
通期業績予想とトピックス

3

株主への利益還元

4

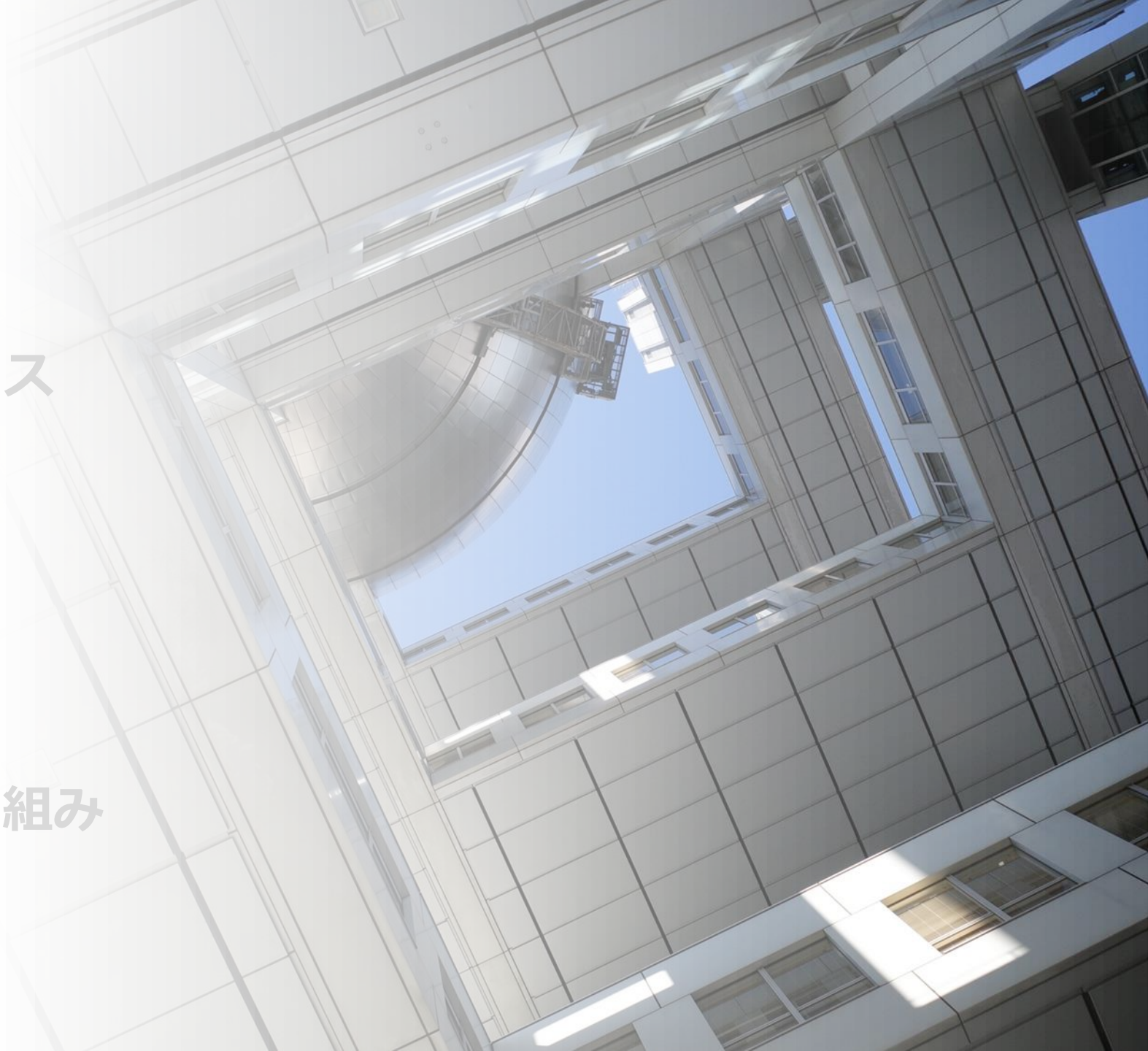
中期グループビジョン
の取り組み

5

サステナビリティの取り組み

6

参考資料



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2022年度 4Q末	2023年度 3Q	前期末比 増減		2022年度 4Q末	2023年度 3Q	前期末比 増減
流動資産	414,797	422,228	7,431	流動負債	174,898	138,642	▲36,256
				固定負債	358,978	416,074	57,096
固定資産	967,849	991,706	23,857	負債合計	533,877	554,716	20,839
				純資産合計	848,769	859,218	10,448
資産合計	1,382,646	1,413,935	31,288	負債・純資産合計	1,382,646	1,413,935	31,288

財務業績推移

(金額単位：百万円)

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期
売上高	669,230	631,482	519,941	525,087	535,641
営業利益	34,709	26,341	16,274	33,338	31,401
当期純利益	23,627	41,307	10,112	24,879	46,855
売上高当期純利益率	3.5%	6.5%	1.9%	4.7%	8.7%

有利子負債	221,937	247,915	288,403	272,148	276,900
純資産	743,348	745,574	784,429	808,788	848,769
投下資本 (有利子負債+純資産)	965,286	993,490	1,072,833	1,080,937	1,125,670
総資産	1,290,484	1,254,613	1,336,042	1,335,991	1,382,646

政策保有株式 (FMH)	217,447	173,095	233,466	236,808	227,445
対投下資本割合	22.53%	17.42%	21.76%	21.91%	20.21%
対純資産割合	29.25%	23.22%	29.76%	29.28%	26.80%

自己資本比率	56.5%	58.6%	57.9%	59.7%	60.6%
総資産当期純利益率	1.9%	3.2%	0.8%	1.9%	3.4%
自己資本当期純利益率	3.3%	5.6%	1.3%	3.2%	5.7%
株価収益率	15.0	6.0	30.6	10.5	5.7
株価純資産倍率	0.48	0.34	0.39	0.33	0.32

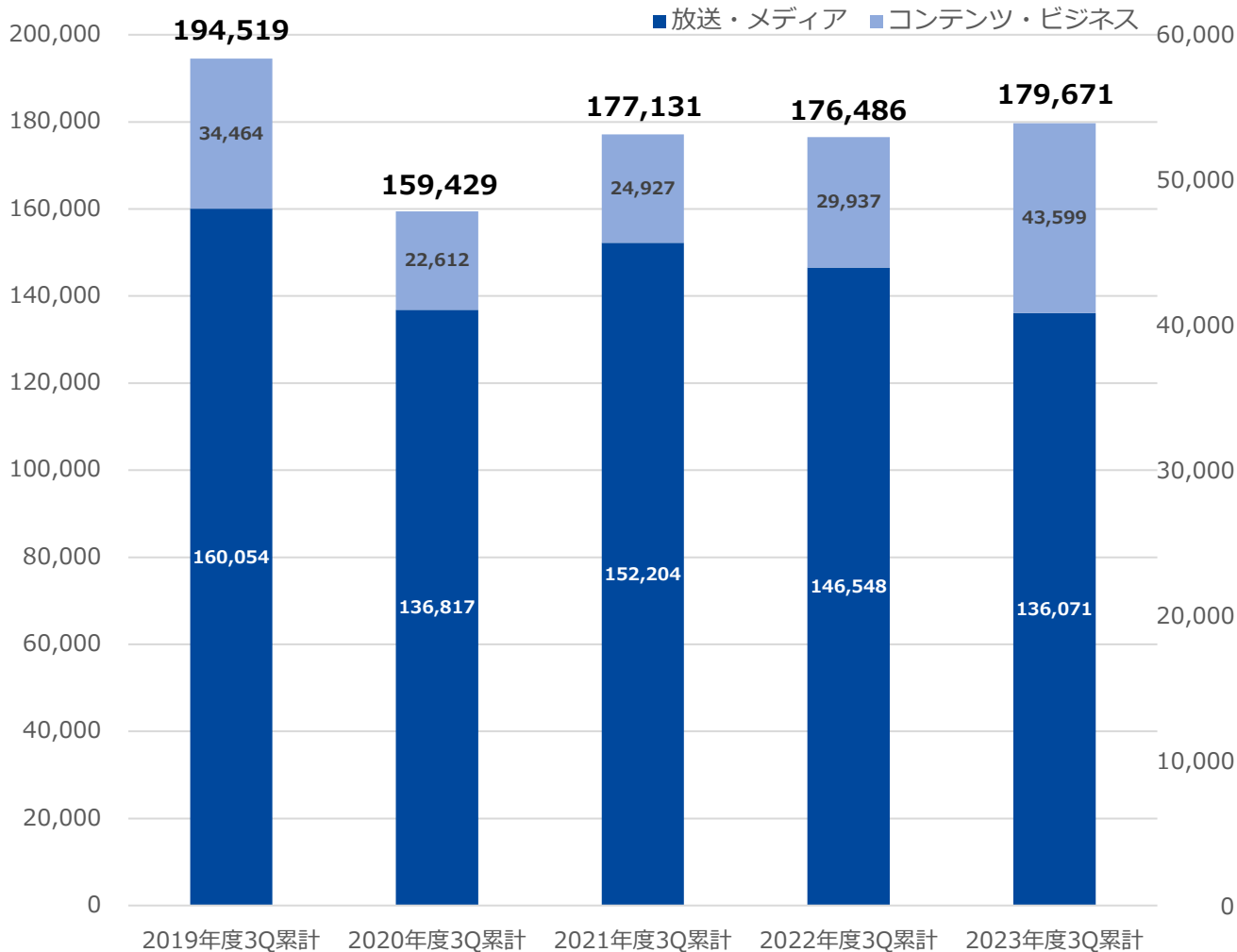
セグメント情報（連結子会社）

セグメント	会社名	会社数
メディア・コンテンツ	フジテレビジョン、ビーエスフジ、ニッポン放送、仙台放送、 フジクリエイティブコーポレーション、共同テレビジョン、ポニーキャニオン、 フジパシフィックミュージック、DINOS CORPORATION、クオラス、扶桑社、NEXTEP、 フジアール、フジ・メディア・テクノロジー、共同エディット、バスク、バンエイト、 ベイシス、フジ・ミュージックパートナーズ、 シンコーミュージック・パブリッシャーズ、グレイプ、イミニ免疫薬粧、 FUJI MUSIC GROUP, INC.、ARC/CONRAD MUSIC LLC	24社
都市開発・観光	サンケイビル、グランビスタホテル&リゾート、 サンケイビルマネジメント、サンケイビルテクノ、サンケイビルウェルケア、 サンケイ会館、サンケイビル・アセットマネジメント、 SKB USA LLC、SKB PORTLAND LLC	9社
その他	フジミック、ニッポン放送プロジェクト、フジキャリアデザイン、 FUJISANKEI COMMUNICATIONS INTERNATIONAL, INC.	4社
合計		37社

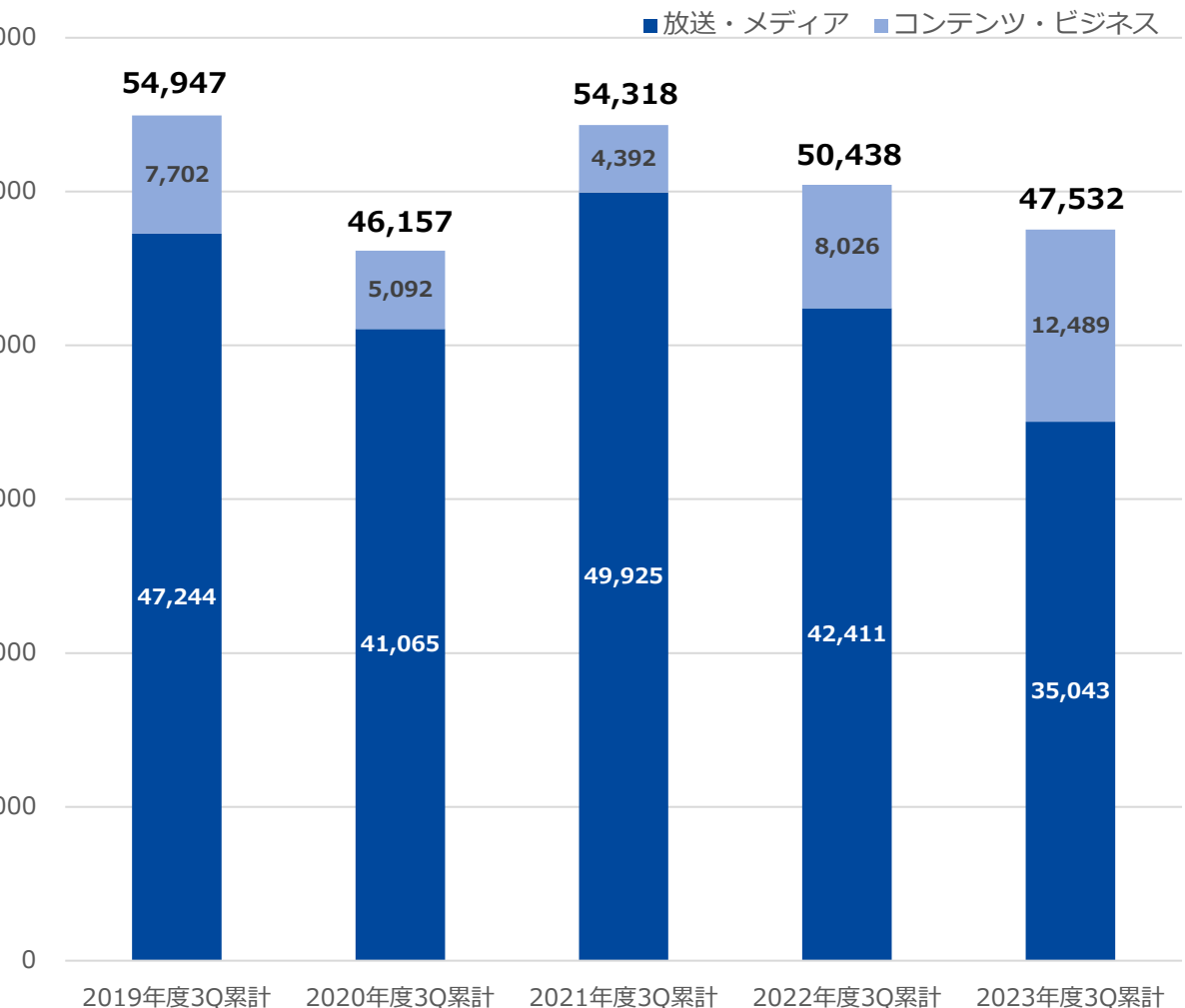
フジテレビ 業績推移

■ 事業別の業績推移 (単位：百万円)

収入

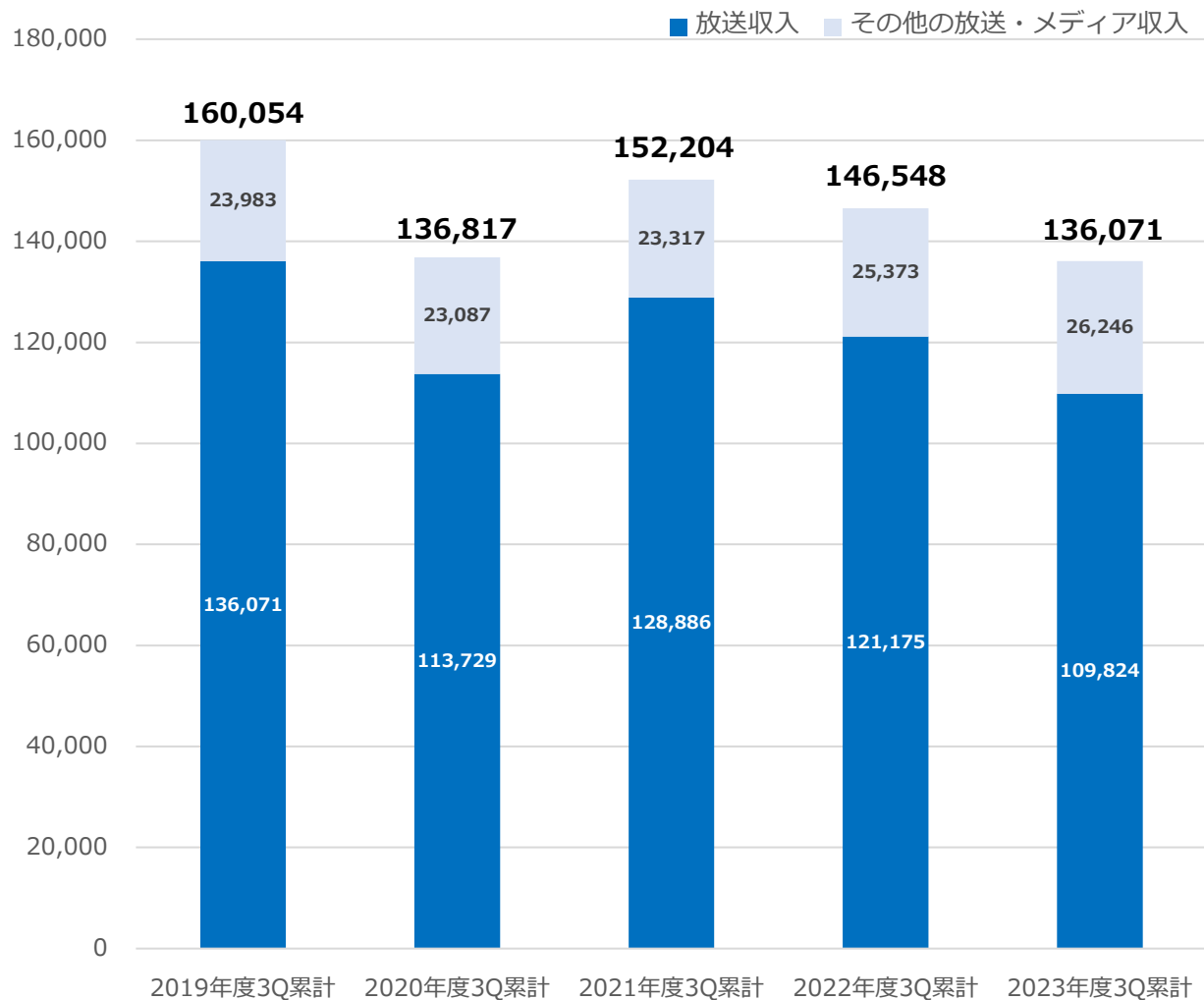


粗利益

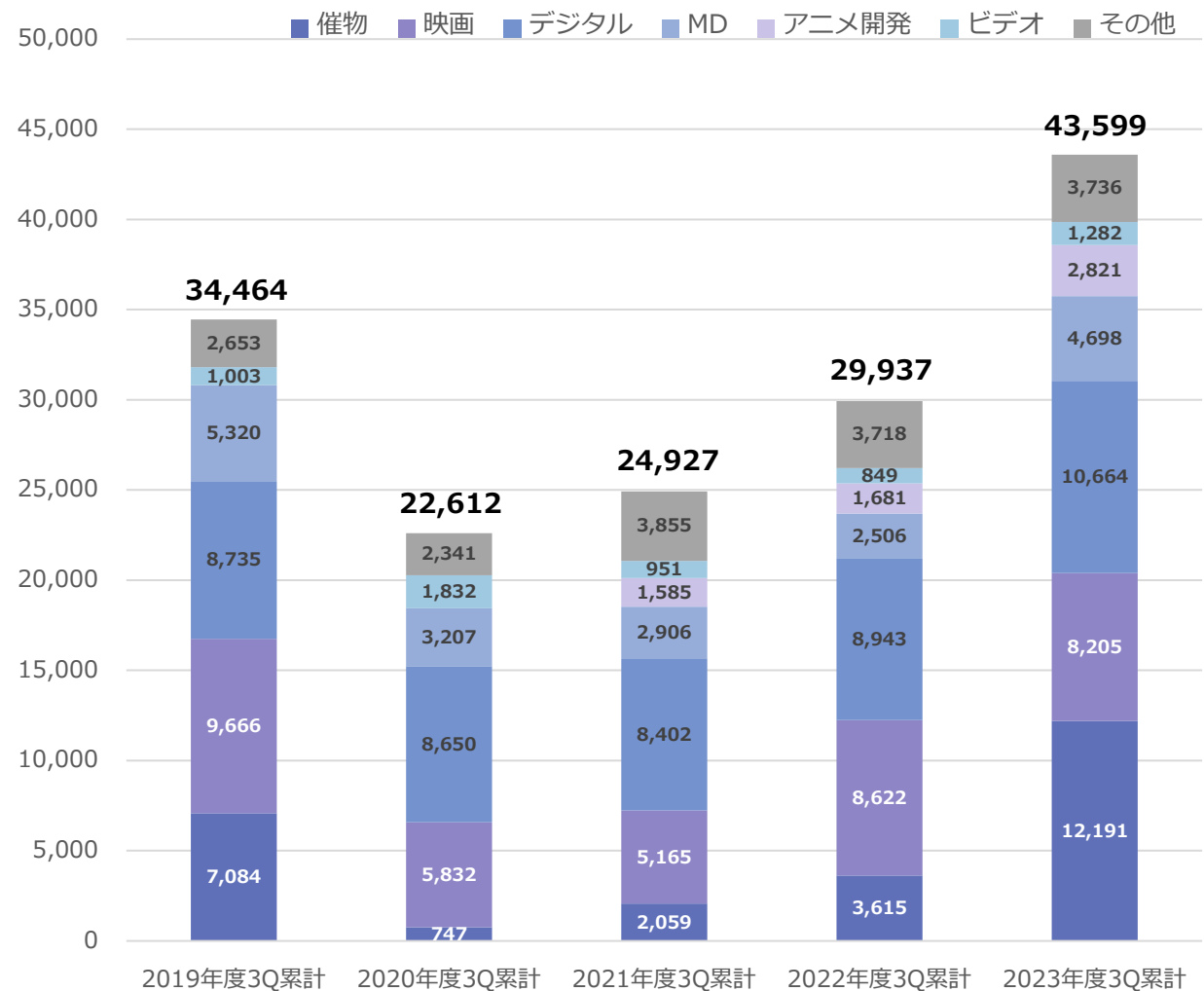


フジテレビ 業績推移

■放送・メディア収入の売上内訳推移 (単位：百万円)



■コンテンツ・ビジネス収入の売上内訳推移 (単位：百万円)



フジテレビ 放送・メディア 推移

■ 広告収入

(単位：百万円・%)

	2022年度				2023年度				対前期比増減				対前期比増減率			
	ネット	ローカル	スポット	合計	ネット	ローカル	スポット	合計	ネット	ローカル	スポット	合計	ネット	ローカル	スポット	合計
1Q	16,042	2,682	21,301	40,026	15,411	2,354	18,377	36,142	▲631	▲327	▲2,924	▲3,883	96.1%	87.8%	86.3%	90.3%
2Q	16,721	2,533	17,831	37,086	16,325	2,451	15,820	34,598	▲395	▲81	▲2,011	▲2,488	97.6%	96.8%	88.7%	93.3%
上期	32,764	5,215	39,133	77,113	31,737	4,806	34,197	70,741	▲1,026	▲409	▲4,935	▲6,372	96.9%	92.1%	87.4%	91.7%
3Q	20,221	2,807	21,033	44,061	16,396	2,706	19,980	39,083	▲3,825	▲100	▲1,052	▲4,978	81.1%	96.4%	95.0%	88.7%
4Q	16,267	2,598	20,339	39,205												
下期	36,489	5,405	41,372	83,267												
通期	69,253	10,621	80,506	160,381												

■ 視聴率

* ビデオリサーチ調べ ・関東地区：ゴールデン：19時～22時 ・プライム：19時～23時 ・全日：6時～24時 ・個人、個人全体：4歳以上 ・コア、コアターゲット：13歳～49歳

(単位：%)

3Q 2023年10月2日～12月31日	ゴールデン		プライム		全日	
	個人	コア	個人	コア	個人	コア
フジテレビ	3.8	2.9	3.7	2.8	2.3	1.7
日本テレビ	5.6	4.4	5.2	4.2	3.4	2.6
テレビ朝日	5.4	2.5	5.4	2.5	3.6	1.3
TBSテレビ	4.4	3.1	4.2	3.0	2.7	1.5
テレビ東京	3.1	1.3	2.7	1.2	1.2	0.5

PUT	31.1	16.9	29.0	16.3	18.4	9.1
-----	------	------	------	------	------	-----

2023年度 2023年10月2日～12月31日	ゴールデン		プライム		全日	
	個人	コア	個人	コア	個人	コア
フジテレビ	3.7	2.9	3.6	2.8	2.3	1.7
日本テレビ	5.5	4.5	5.1	4.3	3.4	2.6
テレビ朝日	5.2	2.3	5.2	2.4	3.5	1.2
TBSテレビ	4.1	3.0	4.0	3.0	2.6	1.5
テレビ東京	3.0	1.3	2.6	1.2	1.2	0.5

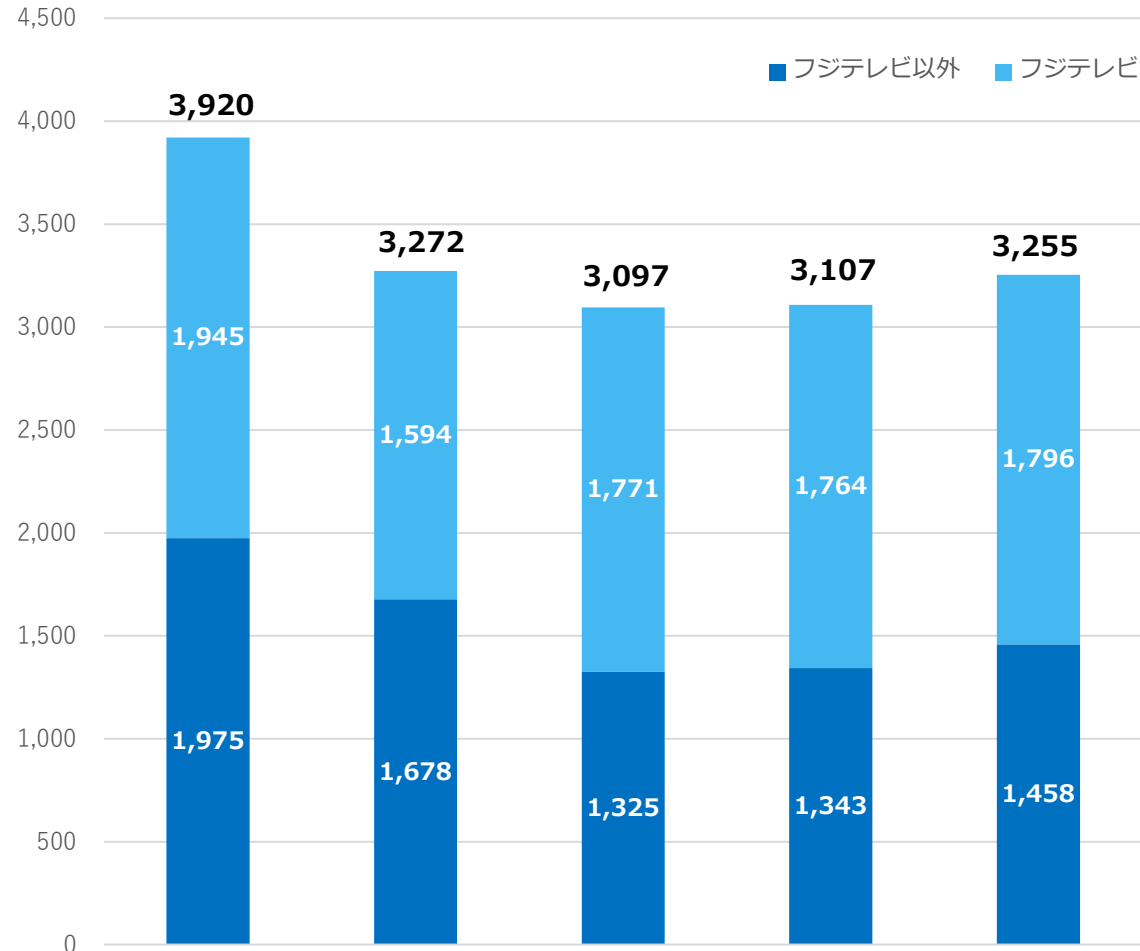
PUT	31.0	17.0	28.9	16.4	18.7	9.3
-----	------	------	------	------	------	-----

メディア・コンテンツ事業

業績推移

■メディア・コンテンツ事業の内訳の推移 (単位：億円)

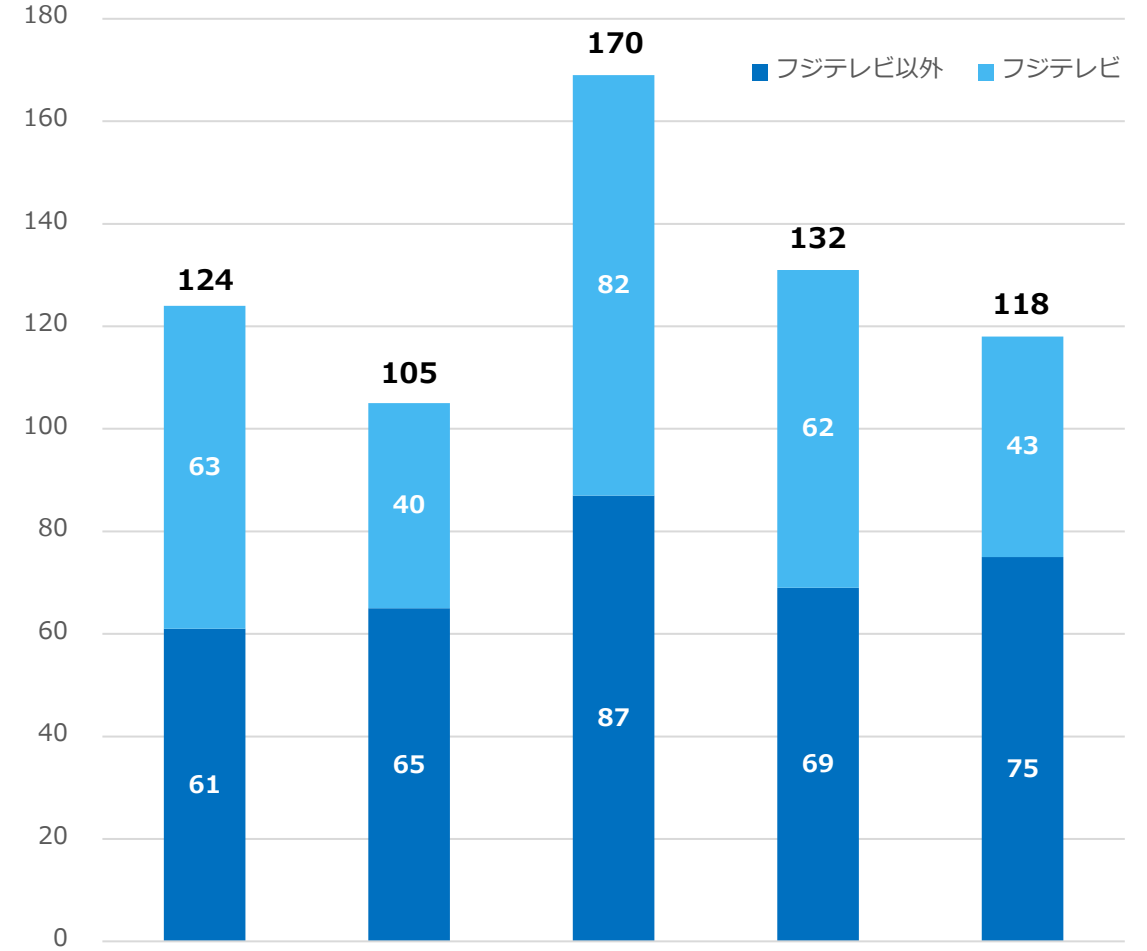
売上高



2019年度3Q累計 2020年度3Q累計 2021年度3Q累計 2022年度3Q累計 2023年度3Q累計

※フジテレビ以外はセグメント売上とフジテレビ売上の差額。セグメント内調整を含む。

営業利益

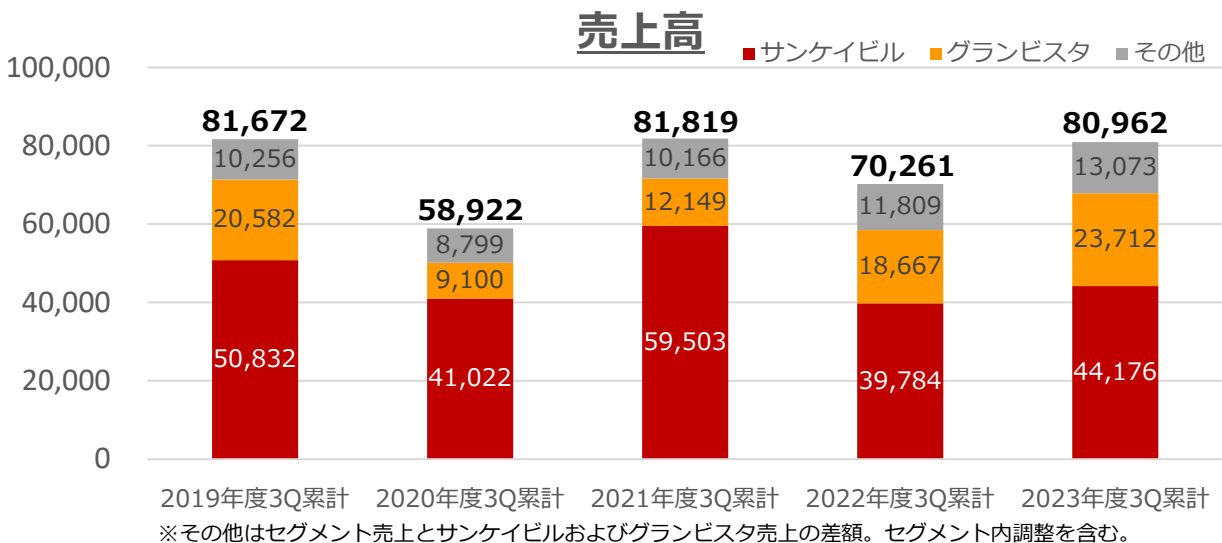


2019年度3Q累計 2020年度3Q累計 2021年度3Q累計 2022年度3Q累計 2023年度3Q累計

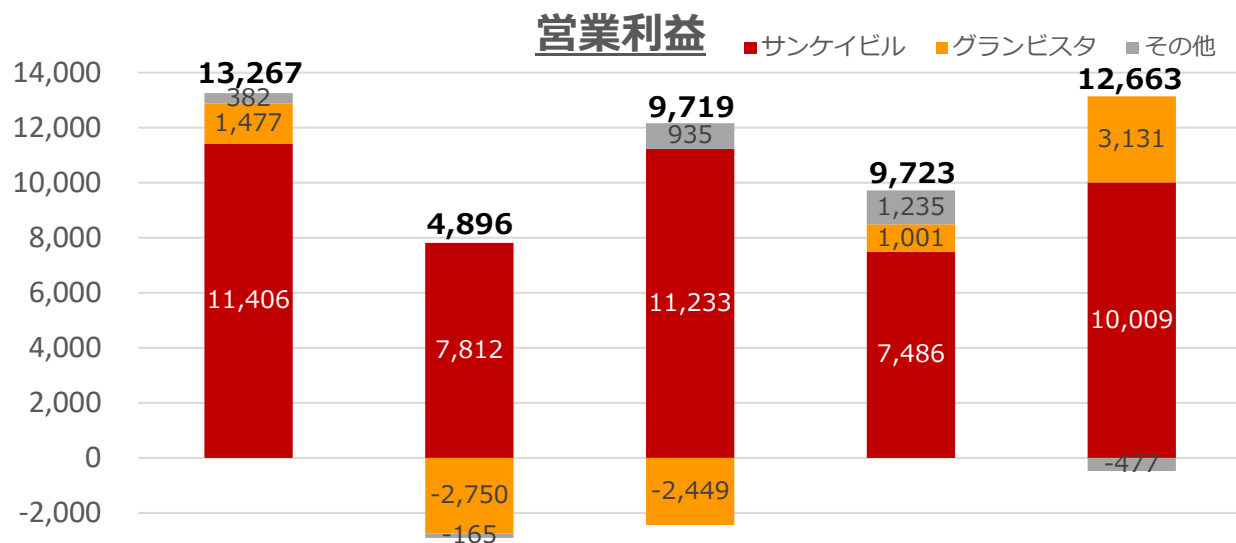
※フジテレビ以外はセグメント営業利益とフジテレビ営業利益の差額。セグメント内調整を含む。

都市開発・観光事業 業績推移

■ 企業等別の業績推移 (単位：百万円)

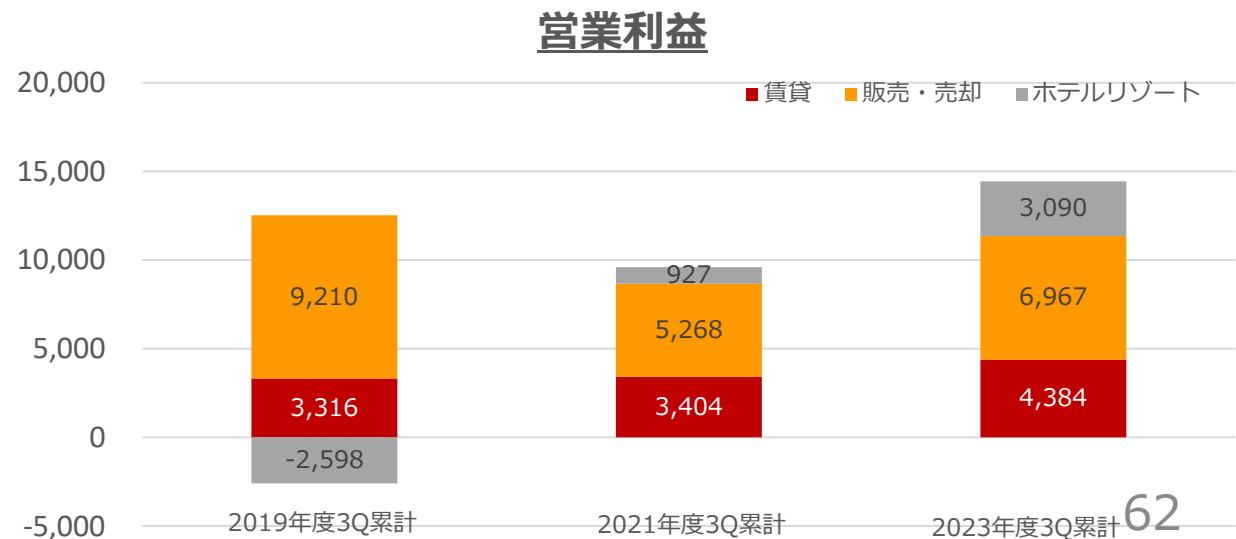
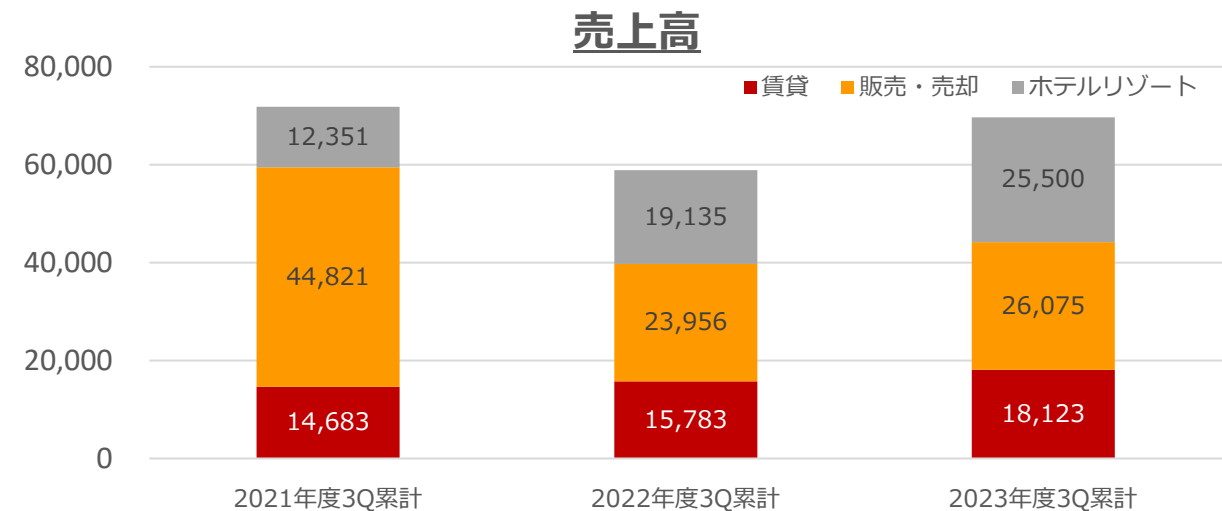


2019年度3Q累計 2020年度3Q累計 2021年度3Q累計 2022年度3Q累計 2023年度3Q累計
 ※その他はセグメント売上とサンケイビルおよびグランビスタ売上の差額。セグメント内調整を含む。



2019年度3Q累計 2020年度3Q累計 2021年度3Q累計 2022年度3Q累計 2023年度3Q累計
 ※その他はセグメント営業利益とサンケイビルおよびグランビスタ営業利益の差額。セグメント内調整を含む。

■ サンケイビルグループ連結の主要事業業績推移 (単位：百万円)



2024年3月期 第3四半期

(2023年10月～12月)

実績



第3四半期 (2023年10月~12月) 連結決算概要

(単位：百万円)

	2022年度 3Q	2023年度 3Q	対前期増減	
売上高	136,449	142,505	6,055	4.4%
営業利益	10,283	10,580	297	2.9%
経常利益	12,704	13,188	484	3.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8,996	9,203	206	2.3%

セグメント別の売上高及び営業利益

(単位：百万円)

	事業セグメント				計	調整額	連結損益 計算上 書額
	メ コ 事	デ イ ン テ ン ツ 業	都 市 開 発 ・ 光 業	そ の 他 業			
売上高	2023年度3Q	113,048	27,902	5,254	146,206	▲3,700	142,505
	2022年度3Q	111,600	22,886	5,885	140,372	▲3,922	136,449
	増減	1,448	5,015	▲630	5,833	222	6,055
	増減 (%)	1.3%	21.9%	▲10.7%	4.2%	—	4.4%
営業利益	2023年度3Q	7,683	2,914	365	10,963	▲382	10,580
	2022年度3Q	7,015	3,385	417	10,819	▲535	10,283
	増減	667	▲471	▲52	144	153	297
	増減 (%)	9.5%	▲13.9%	▲12.5%	1.3%	—	2.9%

営業利益 率	2023年度3Q	6.8%	10.4%	6.9%	7.5%	—	7.4%
	2022年度3Q	6.3%	14.8%	7.1%	7.7%	—	7.5%

第3四半期 (2023年10月~12月) フジテレビ決算概要

(単位：百万円)

	2022年度 3Q	2023年度 3Q	対前期増減	
売上高	64,783	62,619	▲2,164	▲3.3%
営業利益	4,310	4,513	202	4.7%
経常利益	4,445	4,615	170	3.8%
四半期純利益	3,030	3,164	134	4.4%

放送・メディア 収入と原価

(単位：百万円)

	2022年度 3Q	2023年度 3Q	対前期増減	
放送・メディア収入	53,127	48,862	▲4,244	▲8.0%
放送収入	44,061	39,083	▲4,978	▲11.3%
ネットタイム	20,221	16,396	▲3,825	▲18.9%
ローカルタイム	2,807	2,706	▲100	▲3.6%
スポット	21,033	19,980	▲1,052	▲5.0%
その他の放送・メディア収入	9,065	9,779	713	7.9%
配信広告	1,694	2,810	1,115	65.8%
番組販売	4,128	3,843	▲284	▲6.9%
CS放送・その他	3,242	3,125	▲116	▲3.6%
放送・メディア原価	37,545	33,678	▲3,866	▲10.3%
放送・メディア粗利益	15,582	15,183	▲398	▲2.6%

コンテンツ・ビジネス 収入と原価

(単位：百万円)

	2022年度 3Q	2023年度 3Q	対前期増減	
コンテンツ・ビジネス収入	11,656	13,756	2,100	18.0%
催物事業収入	839	3,041	2,201	262.3%
映画事業収入	3,834	3,149	▲684	▲17.8%
デジタル事業収入	2,912	3,907	995	34.2%
MD事業収入	966	1,166	200	20.8%
アニメ開発事業収入	1,001	1,001	▲0	▲0.0%
ビデオ事業収入	344	174	▲169	▲49.2%
その他の収入	1,757	1,314	▲443	▲25.2%
コンテンツ・ビジネス原価	7,299	9,122	1,822	25.0%
コンテンツ・ビジネス粗利益	4,356	4,634	277	6.4%

スポット収入 業種別動向

「食品」「アルコール」「非アルコール」「化粧品・トイレットリー」等
 9月下旬からの回復基調の業種は引き続き堅調
 加えて「医薬品・医療用品」「流通・小売業」等も復調

(2023年10月～2023年12月) ※管理ベース

業種	前年シェア	当期シェア	対前期増減
情報・通信・放送	14.2%	12.7%	▲12.6%
化粧品・トイレットリー	9.9%	10.9%	7.9%
食品	8.8%	9.6%	5.7%
外食・各種サービス	8.1%	8.2%	▲0.9%
交通・レジャー・観光	5.2%	6.4%	19.2%
医薬品・医療用品	5.7%	6.1%	4.3%
非アルコール飲料	5.4%	5.8%	5.2%
金融・保険	6.3%	5.5%	▲14.9%
出版・エンタテインメント	5.1%	5.2%	0.1%

業種	前年シェア	当期シェア	対前期増減
流通・小売業	4.4%	4.7%	4.7%
アルコール飲料	2.6%	4.7%	74.8%
自動車・関連品	4.6%	4.6%	▲1.2%
事務・精密・光学機器	4.5%	3.6%	▲22.1%
衣料・身回品・雑貨	4.5%	2.8%	▲39.6%
家電・AV機器	3.6%	2.6%	▲30.0%
不動産・住宅設備	1.8%	2.4%	28.9%
電話サービス	1.7%	2.1%	19.3%
エネルギー・機械	0.9%	0.8%	▲14.9%
その他	2.7%	1.5%	▲45.9%

本資料には当社及び当社の関係会社・出資先企業の見通し、
目標、予想数値等、将来に関する記述が含まれている場合があります。
実際の業績は今後の事業運営、経済情勢、金融市場その他の状況変化等
さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

【フジ・メディア・ホールディングスHP】
2023年10月17日にリニューアルしました
<https://www.fujimediahd.co.jp/>